

die Weltgeschichte

— das Detail —

I

木村明人

はじめに

ここに掲載した『世界史 — 事項 —』の手稿は、私の平常の授業で使用している生徒用プリントである。本手稿は総ページが420頁であるから、掲載部分はその一部ではある。以下の部分は次年度以降、継続して本紙に発表してゆく所存である。高等学校に於ける『世界史』という科目の内蔵する諸問題については、今更論ぜずとも御承知のことと思われる。私がこの拙い手稿を公表した理由は、総論ではなく現実の授業に基づいた『世界史』の考察をしたいと考えるからである。勿論、そのような試みは現今までにも多くの先学諸兄によってなされて来たこと、及びその成果を高く評価する者ではある。しかし、その場合、素材とされるものは、一時限分の公開授業であるか、又は、数時限分の教材や指導案でしかなく、私の如き浅学の徒には、一向に理解できぬ『世界史』・問題点等であった。本手稿を御覧いただければ、現実の授業に於ける私の『世界史』の諸問題が、明確に看取されることと思われる。教材の一点から『世界史』を論ずるのではなく、教材の全体と現実の授業から論ぜられるべきであると考えたとすれば、如何に拙劣なる本手稿も、『世界史』論にとっては一つの敲き台になりはしないであろうか。碩学諸兄の御批判を仰ぎたい。上記の意図から、この手稿を手稿のまま掲載した。

部立は山川出版社の『新世界史』（柴田三千雄・弓削達・辛島昇・斯波義信・木谷勤 共著）によっている他に、この著書には内容上も非常に多くを啓発されたことを付記しておきたい。また、『現代社会』・『倫理』等に関係する部分は、本手稿では概略にとどめ、重複を避けたこと、及び誤字・脱字等についても御了解願いたい。『世界史』のテオーリアではなく、『世界史』の教材構成に関する私のプラクシスとして御一読されんことをお願いして、大方の御批判を期待するものである。

序章 先史時代

1 人類の起源

○ ヒトの生物学的位置

動物界 (Kingdom)

脊椎動物門 (Phylum)

哺乳綱 (Class)

霊長目 (Order) — 猴類 (原猴類)

猴類 (真猴類) — 広鼻類 (新世界猿)

狭鼻類 (旧世界猿) — 有尾猿類

類人類 — 類人猿

ヒト科^{*}
(Family)

* ホモ属 (Genus)

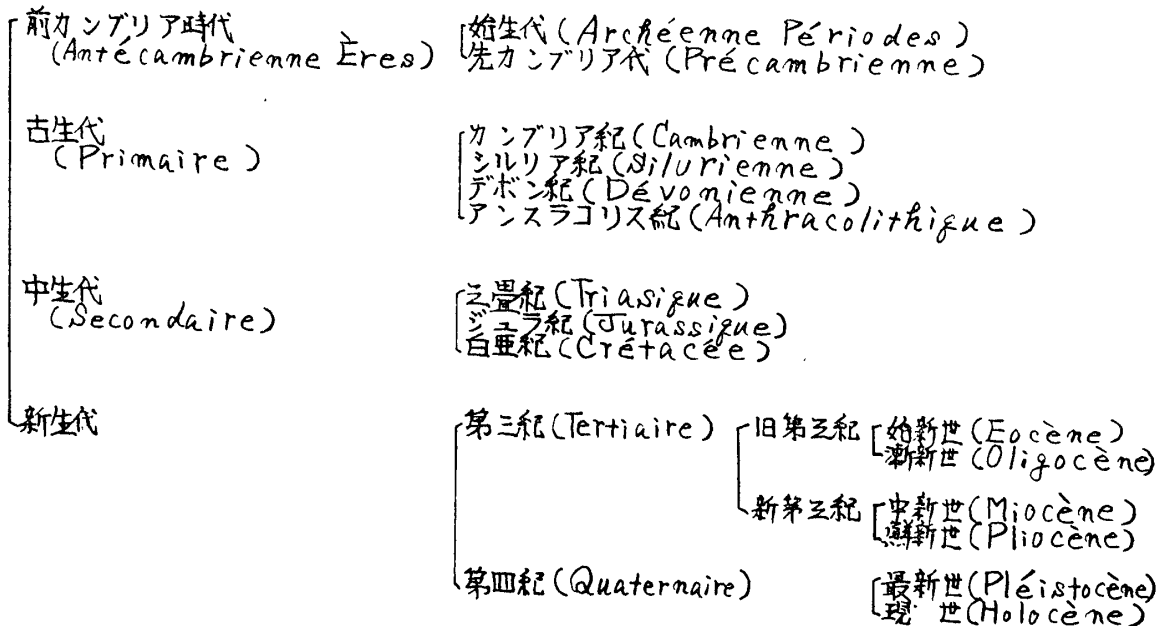
ヒト種 (Homo sapiens)

○ ヒトの特性

- { 道具の制作・使用 ----- 道具の使用時空を想定した活動
- { 火の使用 ----- 化学的反応の利用
- { 言葉の使用 ----- 個体間の Communication 成立 (同一世代間・異世代間に経験が知識として累積・伝授される)

△ 生物的適応 (進化) と文化的適応の組合せ

○ 地質年代



○化石人類 (Fossil Men) の進化.

△猿人 (曙人類) Apeman. 新生代第四紀最新世 (更新世・洪積世) 初めの 200 万年 前 ~ 50 万 年前にかけて、東アフリカ・西アフリカ・ジャフ・中国南部・パ レスチナあたりで打製石器 (礫石器) 使用. 脳容積は 400 ~ 700 cc の範囲.

Pre-Zimjanthropus

Zimjanthropus ----- 1959年. Leakey, Louis Seymour Baggott (1903-72)・妻 Mary (1913-) が、南アフリカ・タンガニイカ・オールドワイ にて発見. [175 万年前か]

Australopithecus 群.

Australopithecus africanus ----- 1924年. Dart, Raymond Arthur (1893-) が、南アフリカ・トランスバール・タ ランクスにて "missing link" として発 見. [170 万年前か]

Paranthropus ----- 1938年. R. Broom (1866-1951) が、南ア フリカ・トランスバールにて発見.

△原人類 (Protoanthropic) 新生代第四紀最新世 (更新世・洪積世) の 40 万年 以前にかけて、ヨ ーロッパ・西アジアを除く旧世界に打製石器 (握斧 hand axe) をもって生そく. 脳容積は、770 ~ 1,220 cc の範囲.

Pithecanthropus-Erectus

1891~94年、ジャフ島トリエール・ソロ湖畔にて、オランダの軍 医. Dubois, Eugène (1858~1920) が発見. 身長 165 ~ 170 cm. 脳容積は、775 ~ 900 cc.

"Natürliche Schöpfungsgeschichte, 1868" (Haeckel, Ernst Heinrich, 1834-1919 著)

Simanthropus pekinensis

1929年. 北京郊外周口店にて、J.G. Anderson・Otto Zdankovsky が発見. Davidson Black 命名. 身長 150 ~ 160 cm. 脳容積は、850 ~ 1,220 cc. 火の使用確認さる.

△旧人類 (Pale-anthropic) 新生代第四紀最新世 (更新世・洪積世) 末期の 10 万年 前 ~ 25000 年前にかけて、ヨーロッパ全土・西アジア・北アフリカに生そ く. 身長は 150 ~ 155 cm. 脳容積は 1200cc ~ 1500 cc. で 現代人とほぼ同じ容積. 原始的な宗教 (呪術的) はじまる.

Palae anthropus Heidelbergensis

独. Heidelberg 近郊マウアーにて. 1907年. 発見. Neander. の複製カ.

Homo sapiens neanderthalensis (Mousterien)

独. ライン河支流のデュッセルデルフ河畔ネアンデルタール谷にて. 18 57年発見. D. Schaffhausen によって学界へ提示. 火 を用いて調理・埋葬の習俗確認.

Cold Neandertalman (Classic・Extreme)

Warm Neandertalman (Progressive・Generalized)

○現生人類 (新人. Neanthropica. Homo Sapiens Sapiens) の出現.

新生代第四紀最新世 (更新世・洪積世) 末期の 4 万 ~ 1 万 年前. 旧人類種々の区別等があらわれ. 世界中に人類が拡散した.

Cro-Magnon. man [1868. 仏. ドルドーニュ州ウーゼル河畔]・上洞人 [20 世紀中. 周川 店の竜崎山]・五ヶ日原人 [1957年. 日本. 浜名湖北岸]

○ 時代区分の考え方.

Thomsen, Christian Jürgensen (1788-1865) [デンマーク] の「三時期法」(Dreiperiodensystem) は、異教時代を、人類の利器によって石器・青銅器・鉄器の3時に区分.

List, Friedrich (1789-1846) [ドイツ] の経済史的観点から、「五時代区分」. --- 漁獵(野蠻)・牧畜・農業・農工業・農工商業の各時代.

↑
 んは+ は皮靴工の子として生まれ、独学で官吏任用試験に合格、のちチュービンゲン大学行政学教授(1817)、ドイツの憲法統一を図り、ドイツ商工業連盟を1819年結成、保護関税の廃止を求め、ヴュルテンベルク政府と対立し定職をなす(1820)、渡米してジャーナリスト活動の中で、Adam Smith を批判し関税保護を主張し、1830年帰国、「ドイツ関税同盟」が成立すると(1834)選ばれるヴュルテンベルク県会に入り、同上の主張とする。

Lubbock, Sir John. (1834-1913) [英] は "Prehistoric times", 1865. で初めて、石器時代を旧石器・新石器とに分.

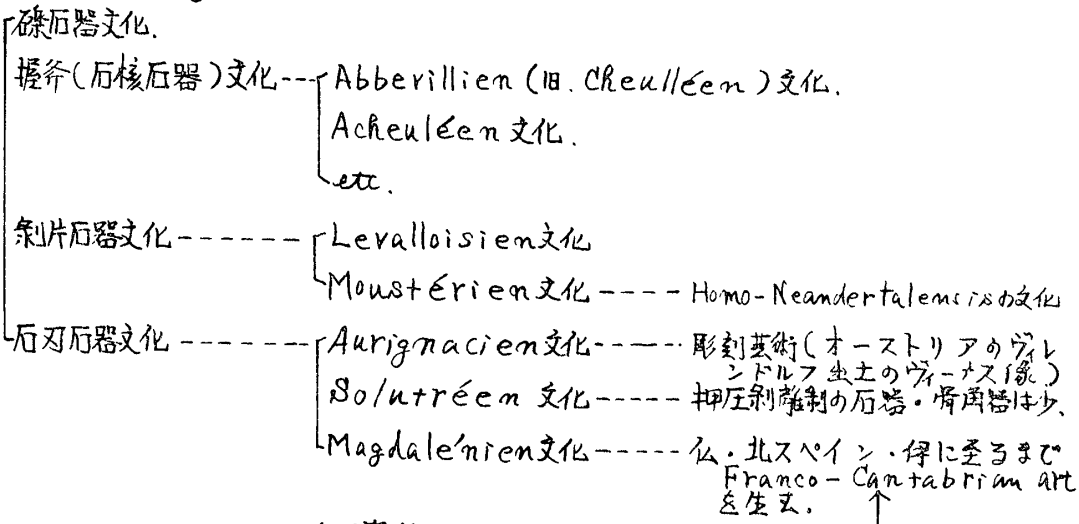
Morgan', Jacques de. (1857-1924) [仏] が、中石器を主張.

↑
 スーサでハムラビ法典碑を発見した人(1901)

○ 後期旧石器時代の区分と文化。(含. 新石器文化)

△ Stone age

Old Stone age. ----- Horde (群) 社会. 約. 1万年前以前.



[洞窟絵画]

※ 仏. ドルドーヌ州の ヴェーセル河畔 のラスコー (1940) 仏. ノンド・ゴーム (1895) 西. アルタミラ (1879)	※ { <ul style="list-style-type: none"> ① 青・緑を除く多様な動物 ② 多種の動物 (人物はなし) ③ 写実的な表現 ④ 荷景はなし
---------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Mesolithic age ----- 犬の家畜化・HordeからClan(氏族)社会への移行過程
 Microlith(細石器) ----- Natufien文化 ----- 前8000年以降のパレスティナ中心の文化
 Azilien文化 ←→ Campignien文化・Tardemoisien文化
 Maglemosien文化(バルト沿岸・犬の家畜化) → Erteböllien文化(ヨーロッパ初の土器)
 Capusien文化 ----- Capusien Art. (メ=ジア・アルジェ～南部スペインにかけて)

- ※
- ①単彩(黒～褐色)
 - ②時代により、動物が限定(水棲動物か～乾燥動物へ)
 - ③写実的ではなく、シルエット(人物が多い)
 - ④背景は白。
- アルジェリア南東部のタッシリ・ナジェール(仏・コルティエ大尉ら1909年発見)

New Stone Age ----- 8000年前～6000年前。[英] Vere Gordon Child. (1892-1957)が「食糧生産革命」と呼んだ人類史上のネー革命・新石器革命・農耕革命の発現。定住性が決まり、北ヨーロッパ沿岸の農耕の形成・磨製石器と彩文土器の出現等により特徴づけられる。他に巨石記念物(Megalithic Monument)として、Dolmen(卓石)・Menhir(高い石柱)・Cromlech(Stone circle)なども出現する。

エジプトのMerimde(ナイルデルタ南西部)のBadarian文化(初の金石併用文化)
 エーフラタス河支流のカブル川畔のHalifian.
 タイグリス河上流の [ニネヴェ Jarmo (現イラク共和国)] } "Fertile Crescent"の外縁部(イラン西部～アナトリア高原・レバノン山麓)の原始農耕遺跡。
 シリア地方の [Natufien文化 Jericho (西海沿岸)] }

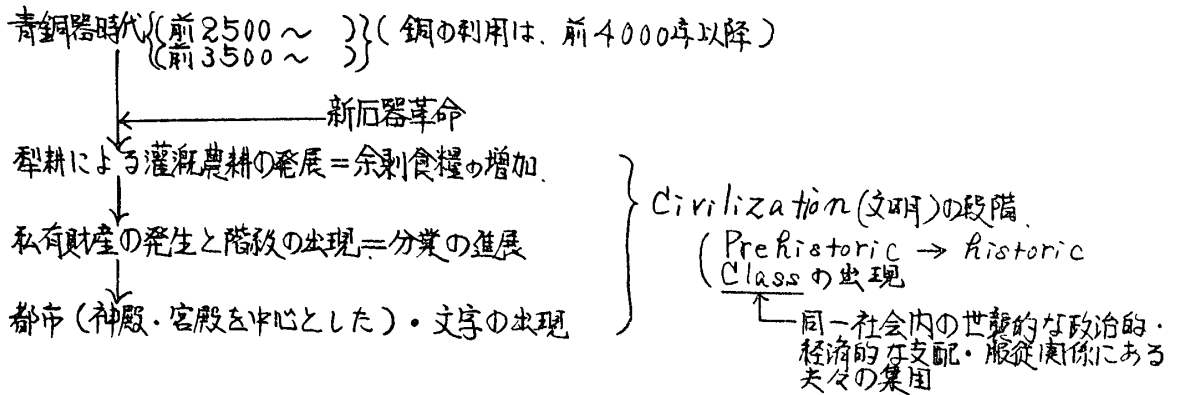
※ 新生代第四紀現世(沖積世・後氷期)となり、現在の地球へと接近した環境。
 ↓ (大型草食動物 → 北上又は消滅)
 { 麦類の栽培化 (Fertile Crescent 外縁部) ----- 農耕 }
 { 羊・山羊・豚・牛などの家畜化(" ") ----- 牧畜 } 文明への「ライク・オズ」
 { トナカイ・馬などの集団馴化(大陸北部・ステップ) ----- 遊牧 }

2. 文明への歩み.

- 農耕の起源
 - 1). 単元説 --- 西アジア → 西アフリカ・東南アジア・新大陸をはじめ全世界へ
 - 2). 四元説 ----- 西アジア (地中海農耕文化)・東南アジア (根栽農耕文化)・西アフリカ (サバンナ農耕文化)・新大陸 (新大陸農耕文化) を主として栽培作物の種類の違いによって考える立場.

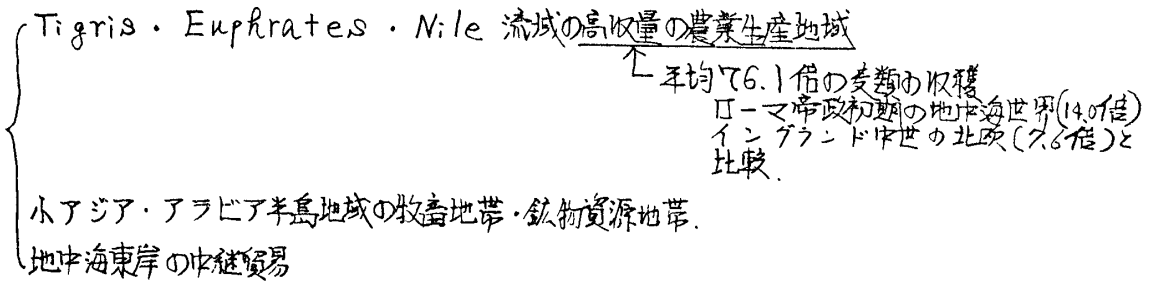
※ But. 野生動物の家畜化と結合した農耕の起源は西アジア起源と特徴づけている.

○ 都市と国家の形成.



第1章 古代オリエント世界

○ Orient 「古代東方」・「日の登る地方」 ← [L] Oriens・Oriar (⇔ Occido)



※イラン高原(東)~小アジア(西)・カフカス山脈(北)~ペルシア湾(南)の地域.

○ Fertile Crescent 「肥沃な新月地帯」 (出) James Henry Breasted (1865-1935)

※イラン西南部・北イラク・南トルコ・シリア・パレスティナ・エジプトの地域.< Orient.

[Mesopotamia]

- o Mesopotamia ← [G] {MESOS 「間」 POTAMOS 「河」}
- o Tigris 「急流」 (1800km) ・ Euphrates 「大河」 (2800km)

前4000年紀後半

Sumerians の都市国家群 (Ur・Lagash 等の20以上の都市国家)

- 彩色土器・銅器・Cuneiform Script・法律等の文化・印章の使用・60進法・太陽暦
- * Cuneiform S. — [Akkadians] (Semites)

- Amolites Assyria
- [Hittite Persia] (Indo-European)

に至る前1世紀ギリシア文字・アラム文字の普及まで使用。(cf. Amarna・Bograz Köy 文書)

① Georg Friedrich Grotefend [独] (1795-1853). 1802 A. Persia の都 Persepolis 出土碑文より三人の王を解読。

② S. Henry Creswicke Rawlinson [英] (1810-1895). 1846年 A. Persia の Darius I IBC. 522-546 の 錫徳文 (Persia・Akkad・Elam) Behistun Inscription (1883 発見) を解読。

前2350頃~2150頃

AKKAD 王国 (Mesopotamia 初の統一)

- Sumerians・Akkadians 複合文化
- Sargon I 「四界の王」 [2411-2350頃] 祖
- Narām Sim [2331-2294] 全盛

↑ AKKAD の兵隊 {キプロスの銅・ヒツソンの鉛・クプロスの銀}

前2065頃~1955頃

Ur-Nammu (Ur 第3王朝)

- {Ur-Nammu [2066-2050] 祖
- {Sul-gi 王 (第2代) — 「Sul-gi (Ur-Nammu) 世」

[Egypt]

- o Egypt 「黒い土地」 — 年平均降水量 33mm
- Nile流域 30000km² (≒1/10 国土)
- Herodotos (前484頃~425) 『戦史』 (9巻)
- 『エジプト誌』 (1809)

- Nile — 白 Nile (エチオピア湖)
- 青 Nile (エチオピア) --- 56% の水量

前3000頃 ~ 2160頃 [5000年頃]

古王国 [前2850 - 2160頃] [第1~第3王朝 第4~第5王朝 第6~第7王朝]

都 Memphis. 五中心に Memes 王 (?) により, 上 Egypt (20 Nomos, Thebes) ・ F Egypt (22 Nomos, Memphis) 統一.

第3~第5王朝 (狭義の古王国) = Pyramid (Khufu 王)

Ra (太陽神) の御子として "Pharaoh" 「現身の神」 尊称。

絵文字の発達・太陽暦・十進法

Hieroglyph (神聖文字) --- 右・左・縦書き自由。	Nile 増水開始期 7月20日頃を年頭とする。30日 × 12ヶ月、+5日のエパゴメーネス。
Hieratic (神官文字) --- 左・右・縦書き自由。中王国~ローマ時代に用いられる。	Mesopotamia は、洪水期に入る春分頃を年頭とする。
Demotic (Hieroglyph, Hieratic 等と文法的に異なる。前2700年頃~ローマ時代に用いられる。	

* Jean François Champollion (1790-1835) [法] 1822年 Ptolemaios V の 錫徳文の "Rosetta Stone" [1799 発見] に刻まれている文章 (Hieroglyph・Demotic・ギリシア語) 解読。

前2160頃~1580頃 [5000年間]

中王国 [前2160~1580] [第11~第13王朝 第14~第17王朝 (Hyksos 時代)]

- 都 Thebes
- 王墓はマスタバ (レンガ墳)

神殿建築の時代 --- Karnak 神殿 Luxor 神殿。

前. 1900頃~1600頃

(古) Babylonia 王国 (Amolites)

都. Babylon 「神の門」・公用語 AKKad 語.

才一王朝 (Hammurabi 朝) 才6代目 「世界の王」 (前18世紀頃) 全盛.

各都市国家神を統合し. Babylon の Marduk 神に統合

Code of Hammurabi (全282条) (1901. [仏] J. Morgan が Elam の古都 Susa にて発見)

- 総則 (1-5)
 - 盗・傷害罪 (6-25)
 - 運人・官吏の義務 (26-41)
 - 農業法 (42-66)
 - 商取引の法 (90-26)
 - 親族法 (127-193)
 - 奴隷に関する法 (205-282)
- 「同層復讐の原理」

Sumer 語の伝統

- Urukagina 法 [前23世紀]
- Sul-gi 法 [前20世紀]
- Lipit Ishtar 法 [前19世紀]

個人的責任制・神前誓約重視・証文尊重・復讐原則・身分原理

→ Hebrews の「旧約」の世界へ.

Babylon の Ziggurat・Gilgamesh 英雄叙事詩・占星術・Astrology

Indo-Europeans の治臨期 (Hittite)

前. 1600頃~12世紀初.

Hittite 王国 (前14世紀中頃全盛) 都. Boghaz Köy (アカラ東方100km) → 「文書」

鉄器の普及民族 ← Mitanni [15c-14c] (ハッパ) (Hurrians)

Kassite 王国 (Babylon 才三王朝) 都. Babylon.

戦車・馬の使用普及民族

前8世紀~612年.

Assyria 帝国の全 Orient 初統一 [前7世紀頃]

都. Nineveh ・民族 Semites.

- Sargon II [前722-706] --- Israel 王国服属
- Assur-ubani-pal I [前669-626] (領土最大) Nineveh に 世界最古の図書館.

※被征服地住民を新附民の為強制移住させる (cf. Israel 王国民)

前. 612年~前6世紀末.

四国対立時代 [前612-前6世紀末]

前17世紀初め. Hyksos の侵入 (「異国人の支配者」) 期

前. 1580頃~前525年.

新王国 [前1580~前525]

- 才十八~二十 王朝中心
- 都. Thebes
- 帝国時代 (才十八~才二十五朝) 二才五朝 (500年前)

才十八王朝

- Thutmose III [前1504-1450] 対. Mitanni 戦 17回
- Amenhotep III [1400-?] シリアバリエスナ・スピア経由 ミナネ・クノッソス・パピロンの朝貢
- Amenhotep IV [1372-52] 都. Amarna [1360年] → 1387年 Amarna 文書
- Atom 教 (= 神教) に改 (自称 Ikhn Atan) → 「Amarna 芸術」
- Tut-Ankh-Amen [1354-1350] 都. Thebes へ.

才十九王朝

- Ramses II [1290-24] 前. 1230頃. 「Exodus」

【地中海東岸】

※ Egypt の太陽暦・十進法・石造建築・幾何学・絵文等々、Mesopotamia の太陽暦・六十進法・天文・文学・法律・etc. に対し、Alphabet・宗教 etc で世界に貢献した世界。

△Phoenicians [前25世紀頃～前10～8世紀全盛] (Semites)

- Crete (Kreta)・Egypt の海上権に代りて海上貿易。
- Alphabet をギリシア人へ。
- Sidon (現サイダー)・Tyros (現スール)・Byblus (現ジュバイル) 中心に都市国家群を形成。
 - 都帝 前. 814 頃、Carthago 「新しい都帝」

△Arameans [Damascus 王国] [前13世紀～8世紀] (Semites)

- 内陸中継交易で Damascus 中心に活躍。
- Aram 語 — A. Persia の公用語・内陸商業用語・中央アジアの諸民族の文字の母となる。

△Hebrews [前15世紀～前6世紀初] (前10世紀全盛) (Semites)

- 前15世紀頃、一部が西海沿岸に定住。
- 前1230頃 『Exodus』 (Moses) → 合流して、鉄器時代 [前1200～1025頃]

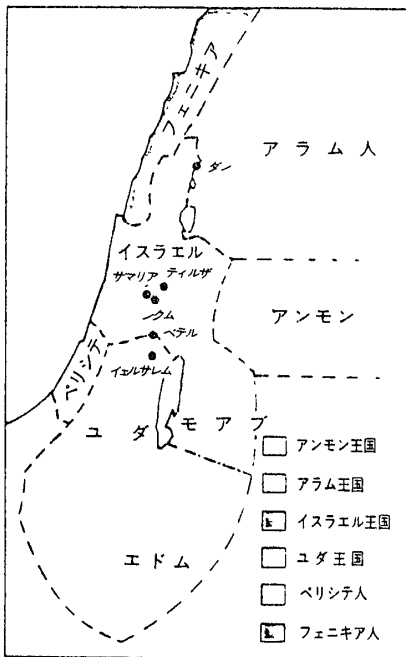
- 神 Yehveh 信仰 (≠ 世界に唯一の神)
- 遊牧生活から豊穡生活へ。
- Philistines との攻防 = 製鉄法導入

Hebrew 王国 [前1025-922]

- ① 祖. Sargon I [1225-1010]
- ② Dawid [1010-971]
 - Juda 族を新支配として併合。
 - Jerusalem に Yehveh 信仰 確立。
- ③ Salmō [971-911]
 - Hbrew Alphabet 成立。
 - Moses 五書成立 (?)

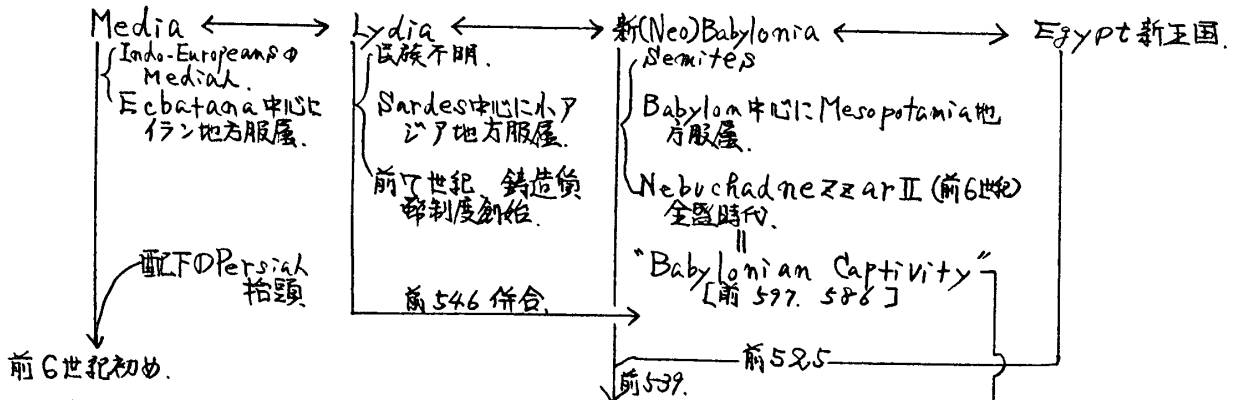
- 分裂
 - 北、Israel 王国 [922-722]
 - 都 Samaria → Assyria 帝国 服属
 - 南、Juda 王国 [922-586]
 - 都 Jerusalem → 新Babylonia 王国に服属

『Babylonian Exile』
or
『Babylonian Captivity』 (前586-前538年迄)



イスラエル、ユダ王国
世界史百科36頁

III 国対立時代



Achaemenes Persia 帝国の全 Orient 再統一. [前6世紀]

- 祖. Kyros II [前559-530]
Media・Neo-Babylonia 併合. Babylonian Exile の解放 [前. 538]
- ② Kambyses II [前529-521]
Egypt 征服.
- ③ Darius I [前521-486] ----- 『Behistun Inscriptions』
インドス河以西の全 Orient 統一. Aram 語を公用語.
都. Persepolis 中心に
全国を20余の属州に分け. Satrap (知事)
Susa ~ Sardes の2400km の国道・駅伝制.
Dareikos 貨幣鑄造.
"王の眼": "王の耳" 設置.
* 国教 --- Zoroastrianism (天使・悪魔・最後の審判・天国・地獄)
Mazda (知恵・光・善) を中心にアーリマン (悪) の二元論.
→ Sassan 朝 Persia [226-651] の国教.
『Avesta』(聖典) 4世紀成立.
唐代の中国に伝えらる. 『拜火教』(祆教)

- ④ Xerxes I [前486-465]
父. Darius I 世以来の Persia W. [前492・490・480・479] で敗退.
* Alexander III [前336-323] の大遠征 [前334-323] で亡.
前. 334. Granicus の戦い.
前. 333. Issos の戦い.
前. 330. Gaugamera・Arbela の戦い.

前. 330頃 ~ 前30年. Hellenism 時代.

- Yahve 信仰再建期. Ezra・Nehemia.
- Alexander 大王領
- Ptolemaios 領下
- Seleukia Syria [前312-前63] の下で弾圧 [168] と反抗 (Maccabee - 撰. 167-165)
- 前63. Herodes 王 [37-4] の自立.
- M. Antonius と結んで樹立.
- Pharisees・Sadducees. Essenes の派の対立から. Jesus の出現
- ↓
- キリスト教の成立

- 後. 44. Rome の通牒使
- 66年. 5月16日. Nero 帝による大虐殺.
- 70年. 9月7日. Jerusalem 占領破壊.

"Diaspora"

MEMO.

第2章 地中海世界

※ Leopold von Ranke [独] (1795-1886) の「一切の古代史は、いわば一つの湖に注ぐ流れとなってローマ史のなかに注ぎ、近世史の全体はローマのなから再び流れ出るということが出来る」という考え方をやや拡張し、ヨーロッパ以外の世界にも視点を投ずれば、ローマ史から流れ出てきた世界は、「オリエント的・アラブ的世界、ラテン的・ゲルマン的世界、ギリシア的・スラヴ的世界」を考えることができる。これらの世界を生み出した歴史的世界が「地中海世界」であった。

※ 地中海世界は、Aegean civilisation にはじまり、Mycenae c. 以降のギリシア人の文明を経て、Orient の古い文明と再融合した Hellenism 文化へと発展し、ローマによってまとめあげられた歴史的世界である。

of [Aegean Civilisation] (前2800頃~1100頃)

前期. Kretan Civilisation (Minoan c.) (前20~前15世紀全盛)

• Knossos の Minoan 王 (?) により全島統一 [前1800頃]

{ Knossos の Labyrinthos (迷宮) を代表として城壁や独立した神殿をもたない。}

上下水道・浴室を完備した王宮と都市

多彩・優美な図柄・写実的な図柄の彩色土器

Linear Script A の出土 (← Egypt の絵文字?)

史上初の海洋文明 — Aege 諸島・Egypt 中王国・Britain 等と交易。

- { Egypt 新王国 (前14~13世紀)
- { Phoenicians (前10~8世紀)
- { Greek (前7~5世紀)
- { Rome (前2~)

Sir Arthur John Evans [英] (1851-1941) の発掘
『英雄列伝』 Plutarchos (46頃~120頃) (ギリシア人)

※ Mycenae 人により滅亡か? [前1500頃]

後期 { Trojan Civilisation (Iliad c.) [?~前1200頃]

{ Mycenae Civilisation (前1600~前1100頃) (Mycenae・Tiryns・Orcomene etc)

※ Trojan war [前12世紀初]

{ 城壁を具備した王宮。円頂墓 (トロス)
抽象化・図案化された男性的・尚武的な彩色土器
"Linear script B"

Mycenae c. は Aegean c. の中で性格が異なる。

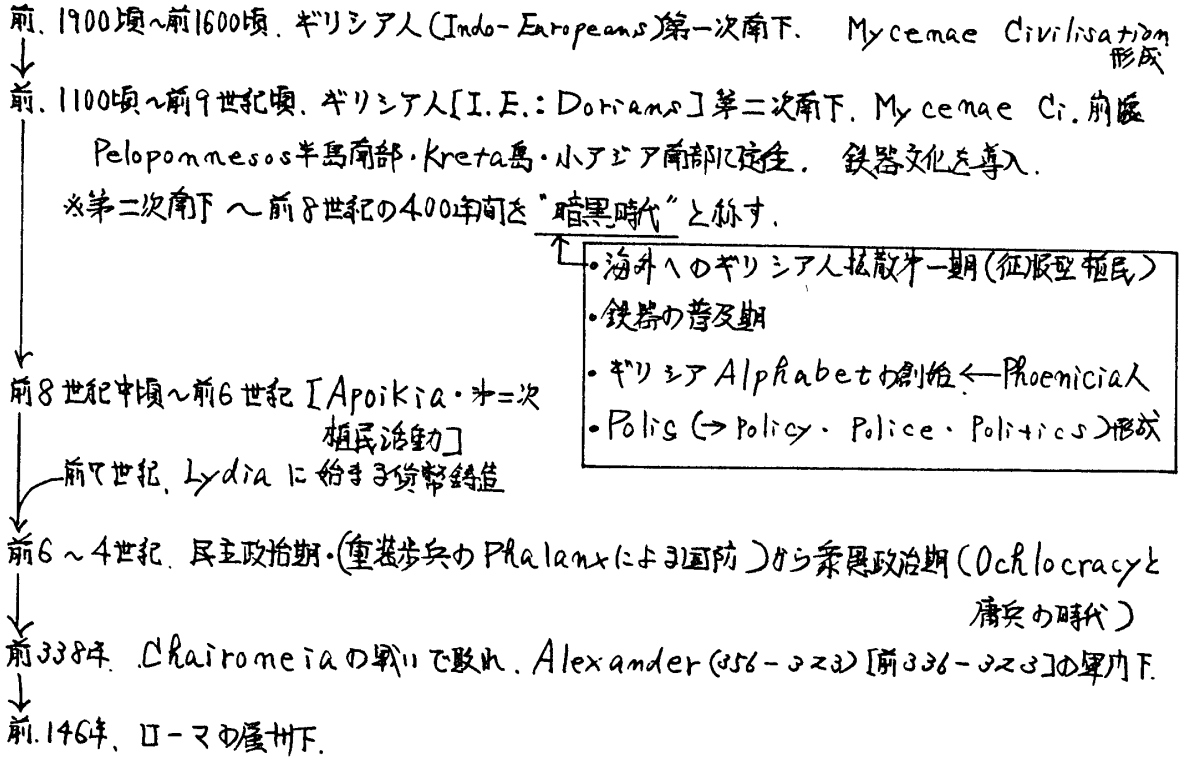
↳ M. Ventris [英] (1922-56) が解読

<ギリシア史が Mycenae 時代までさかのぼる。>

↑ Heinrich Schliemann [独] (1822-1890) が、1871年よりトロイを次にミケナイ等を発掘した。
↑ Homeros (Homer) (前9世紀頃) の "Iliad" "Odyssey" (双方とも24巻) を信じて。

1. ギリシア人の国家と文化.

○概略.



○ギリシア人の生活

- Temenos を平等に分け, "Kleros" (←「割る」「裂く」の原義) 「割り当て地」を有する平等な市民の社会 (→ kleros が「私有地」「取財」を意味するようになる)
- Acropolis (城山「高台」)・Agora (広場) (ローマの Forum) を中心に軍事的・政治的に "Symoikismos" (集住) して Polis を形成する場合あり (Attika 型・アテナイなど) 但し, Sparta は征服型である.
- 各 Polis は独立性強くまとまる = と少し. ← 市民は "zōon politikon"
各 Polis は, eleutheria (自由)・Autonomia (自治)・Autarkeia (自足) と原則とする.
- Polis を越えた共通の民族意識も存在する
 - ① 共通の言語を語る者としての自称 "Hellenes". 他民族を "Barbaroi" と呼ぶ.
 - ② Olympian Gods (12 神) の信仰. — Hesiodos (前700頃) 『神業記』・『労働と日々』(労働の尊厳と時代反映)
 - ③ Homeros の "Ilias". "Odysseia" の賛唱.
 - ④ Delphoi の Apollo 信仰より "神託" の信仰 (cf. Themistocles, Sokratēs)
 - ⑤ Olympic Games [初回前776年 ~ 後393. Treodasios I 世の禁止]
(夏の農閑期に5日間開催. その前後1ヶ月間を「神の休戦」とする)
 - ⑥ Amphiktymia 「隣邦同盟」を締結する場合もあった.

01 アテネの民主政治

Monarchy ← Ionians の Synoikismos による Polis. ・資料『アテナイ人の国制』(アリストテレス)

前8世紀頃 Aristocracy

Arcton 「執政官」(初期は3名の終身制・前750頃10年任期となり、前683以後は、1年任期で後には9名まで増加)

Areios pagos (「アッロポリスの西方の丘」) 任期を終了した Arcton や長老により、構成され、重罪裁判や役人の監督を行なう。

↓ Persian wars 中の前487、くじ引きで選出することとなる。

身分闘争・貨幣経済。

前624年 Drakon の法 (「血の律法」)

{ 訴訟手続・刑罰の明文化 } 外資習法の欧文化。
 { 故意・過失・正当防衛による殺人の区分 } 国家が公権力をもって罰を課す
 { etc }

※大半の条項は Solon の調停で廃止する。

前594年 Solon (前640? ~ 560頃) の Aisymnetes 「調停」・Timocracy 「財産政治」

・従来の Phyle (部族) 制を解組し、全市民をその財産により4等級(部族)に分ける。
 ・Areios Pagos とは別途に「400人評議会」組織 ←
 ・Seisachtheia 「重荷おろし」
 ・身体を抵当に借金することを禁止

↓

Pentakosioedimmoi
Hippeis
Zeugitai
Thetes

※別格 { Metoikoi
↳ Metroikion
奴隷(←購売・債務)

↑ 市民(=重装・軽装歩兵)の債務奴隷化防止

Stasis 「内争」 { 海岸党 - 中庸
平原党 - Aristocracy・Oligarchy
山岳党 - Democracy

前551頃 Peisistratos (? ~ 前527) の Tyranny (僭主政治)

{ 亡命貴族の土地を没収して自作農育成 }
 { 1/10 税を課し、勸農業 }

※ 前527以降、子息の { Hippias (560-490)
Hipparchos (? - 514 暗殺) } [謀] Tyrant 化。

前510 追放された Darius I の許へ逃がれ、前490年 Marathon の戦いでは Persia 軍を先導

貴族政の基礎としての部族制を破壊
重装歩兵の民主政の制度的完成

前508年 Kleisthenes の Ostrakismos 「陶片追放」

・Solon の「400人評議会」を廢して「500人会」設置 ←
 ・Ostrakismos 創設。(Ostrakon が6000票を越えれば10年間の国外追放・1かし、市民権・財産は没収されない。)

{ 10部族制 (Triitys による)
10人の Strategoi 将軍

前5世紀前半. Persian wars [前500~前479・449]

- ①前490. Marathonの戦いで撃退
 - ↳ Spartaの援軍使者 Pheidippides が50マイルを走る.
 - ②前480. Thermopylaiの戦い(Sparta軍全滅)→アテネ焼失.
 - ↳ Salamisの海戦(Temistocres指揮)で勝利.
 - ③前479. Plataiaiの戦いで勝利.
 - ↳ Mykale岬の戦いで勝利し. Ionia都市解放.
- } Xerxes I世 襲征.

① Delian League [前477→前454. Athenaiへ本部→前404]

↳ Aristedes (前530~468) 提唱の攻守同盟. 各都市は Phoros を分担.

② Kleistes の政治的発言力増大 (←水兵・建艦)

↳ 前461. Ephialtes の改革

- ① Kleistes に対し Archon 等に入れ. 民会等に出席出来るように. 手当が支給される.
- ② Areios Pagos の権限を殺人裁判に限定

- Archon. <比引き判 [前487]
- Laurion 銀山開採 (奴隷制銀山) [前477]

前5世紀中頃. Perikles 時代 [前460年代~30年頃]

- ・前454. Delian League 本部を Athenai へ移す.
- ・前449. Kallias の和約 (Persian wars 終結)
 - ① A. Persia は小アジアのギリシア植民地にある日行程以内には軍を遣わぬ
 - ② ギリシアは. 他の小アジア地域を A. Persia 領と認める.
- ・ Parthenon 神殿の再建 [ドーリア式] — Pheidias (前490頃~30頃) 総監督 (Parthenon 本署のアテナ女神像は彼の作)
- ・ Ekklesia (18才以上男子) を最高決議機関となす. (議長は kleros で1回交代)
 - ↳ 市民を 両親ともアテネ人である者に限定 (⇒ ローマの市民権拡大)
- ・ 役人・官吏・兵士への手当・観劇手当支給.
- ・ 都市に植民都市 国境トウルオイ市建設 [前444] (Protagoras が憲法起草) (Herodotus 植民加める)

- ※ 政治参加が. 身分的・経済的制約を払拭 ⇒ Sophist の時代・衆愚政治への動き.
- ※ アテネ帝国に対する反感
- ※ 市民の道徳的後退

前5世紀後半.

① Peropomnesian war [前431~404]

Delian L. & Peropomnesian L.
前477-404 [前550~366]

(・ハズ流行(25%死)
・Perikles死[429])

前421. Niciasの和約

南戦

前404. Athenai 降服.

- ・ Delian L. 解散
- ・ 艦船300の内、12を除いてスパルタへ.
- ・ アテネ・ヒレウス向の長城破壊.
- ・ アテネ領土をアッティカ・サラミスに限定.

Sparta 全盛期.
(Persia と連絡した)

前4世紀.

Antalkidas (大王の和約) の和約 [前387]

- ・ アテネのギリシア植民市の Persia 王への服従
- ・ ギリシア本土の各ポリスは独立自治を守る.
- ・ 違反ポリスはペルシア王の名の由に征討する.

Leuktra の戦い. [前371]

Thebae の全盛期.

Demagoos (「民衆指導者」) による Ochlocracy

⑧ アテネ [Isokrates (前436-338) の汎 Hellen 主義.
Demosthenes (前384-322) の反 Macedonia 主義] の対立.

前338年. Chaironeia の戦い.

Korinthos 同盟 (Sparta を除く) を介して.

Macedonia 王国 (Philippos II世.

Alexandros) の服従下へ.

(倫理のあり参考)

② ギリシア文化の黄金時代. (次頁参)

● Thukydides (前460頃~400)

↑ Perikles と対立

「衆を自由に制御し、彼等を引っぱっていった。一人名の上では民主政でも、事実は、一人者による支配である。」

・ Perikles による 追放・パロポネソス戦争への従軍を経て

・ 『Historiai』 (8巻)

批判的・科学的歴史書.

○ Herodotos (前484頃~425)

・ 『Historiai』 (9巻)

● Aristophanes (前450頃~385) の平和を強調した喜劇.

{ 『女の譚話』・『蛙』・『鳥』・『蟻』
『雲』 — Sokrates と Sophist の一員として批判 (前423. 上演)

(Sophist 革命)

- Protagoras (前485-415頃)
 - を代表とする Sophist たち抬頭
 - 「人間は万物の尺度である。そして存在に対しては存在者の、その非存在に対しては非存在者の」
 - Perikles 時代のアテネを「ギリシア全土の学校」として治癒。

- Sophokles (前496-406)
 - 悲劇技巧の完成者として、非合理的な神の支配をも甘受する非英雄的人間を描く。
 - 『Oidipus』・『Antigone』
 - Delian 人、財務官。

- Euripides (前485-406頃)
 - Anaxagoras に師事し、Protagoras や Sokrates と交友。
 - 『Medea』・『トロイアの女』(反戦劇)

- Aischylos (前. 525 ~ 456)
 - Salamis 従軍、Marathon の戦い従軍。
 - 運命の力を、神の才や英雄的人間の力より大きくしたものとして、そこに生まれ得る苦悩を 俳優二人の対話形式として悲劇を定式。
 - 『Prometheus』・『Oresteia』

*この名が、ギリシア三大悲劇詩人といわれる。
Tragöidion (「2年の歌」)

※前時代の民主政成立期には、抒情詩や自然哲学が盛んであった。民主政の完成以降は、Sophist 革命といわれよう。対象が、人間・人間の内面・人間関係に向けられていた。

- 抒情詩 { Sappho (前612頃 ~ ?)
- { Anakreon (? ~ 前5世紀前半)
- { Pindaros (前522 ~ 442頃)

○ 自然哲学

- Sokrates (前469-399)
 - サラミス戦10年目のアテネに生。
 - Peropommesian 軍 [前431-404] に従軍 [424・422]
 - ↑ 428, Aristophanes の『雲』上演。
 - Maiestike による絶対的真理の探求。
 - 前399年、刑死。(Platon 28才頃)

- Platon (Aristokles) (前427-347)

- Aristoteles (前384-322)
 - 前367 (17才) にして、Platon の Akademeia に入門 [367 ~ 347 迄 20年間]
 - Lykeion [前335 ~ 323]

- Demokritos (前460 ~ 360頃)
 - Atomism (古代自然哲学の完成)

- Pythagoras (前582頃 ~ 497頃)
 - 南イタリア
 - * Miletos に産し、南イタリアで生長し、アテネに完成する自然哲学とは(?)

- Xenophanes (前570-470頃)
 - ↑ Parmenides (515/60 ~ 460頃)・Zemon (504頃 ~ ?) の Eresian school の Werden の内観へ [得]

- Thales (前624-554頃) に始まる Milesian school の Ontology の内観 (物言論) Hera Kleitos (前535-475)

0 [Hellenism 時代]

* Droysen, Johann Gustav (1808-84) [独] (1848年の革命には、フランクフルトの国民議会議議中央派に属し、ドイツ主義のドイツ統一に尽力) の、『Geschichte des Hellenismus』(1836-43) に於て、Hellenism・Hebraism とヨーロッパ文明の二大柱とする。彼によれば、『Geschichte des Alexander des Grossen』(1828) において、時期は、Alexander の東征 [前 334] 又は、没年 [前 323] から、Ptolemaion の王家の Egypt 滅亡までとされる。

* Macedonia --- ギリシア系 Dorians (?) ・ Barbaroi と見なされていた。

(Persian W では A. Persia 側。
Peropomnesian W では Sparta 側)

< Macedonia 王国 >

Phillippos II [前 359 - 336]

Macedonia 王国 強化 ← ギリシア文化・長槍隊導入 (Thebae 人質)

Athenai の態度 { Isokrates (前 436 - 338) = 汎 Hellas 主義
Demosthenes (前 384 - 322) = 反 Macedonia 主義 }

前 338. Chaironeia の戦い (Athenai ・ Thebae X Macedonia)

Korinthos 同盟 (Macedonia 盟主 ・ Sparta を除く) [前 338 ~ 前 301]

{ ・ ギリシア諸 Polis の共同平和の遵守
・ 諸 Polis の戦争放棄・現体制 (政体) の維持
・ Macedonia を盟主とする相互攻守同盟 } = A. Persia 遠征決議

Phillippos 暗殺

Alexander III [前 336 / 356 - 323] ← 3才にして Aristoteles (前 384 - 322) に師事 [前 342 - 336]

・ 前 335. Thebae と Korinthos 同盟規約により、Pindaros (前. 522 - 422) の生家を除いて破壊・市民 8000 人を奴隷とす

・ 前. 334 ~ 324. 東征

{ ・ 前 334. Granicus の戦い
・ 前. 333. Issos の戦い. (3^万 X 60^万 = Darius III) → 前 332. Egypt 侵入
・ 前. 330. Gaugamera ・ Arbela の戦い → 前 324. Babylon 入城 }

Alexandria 建設 [前 331 ~]

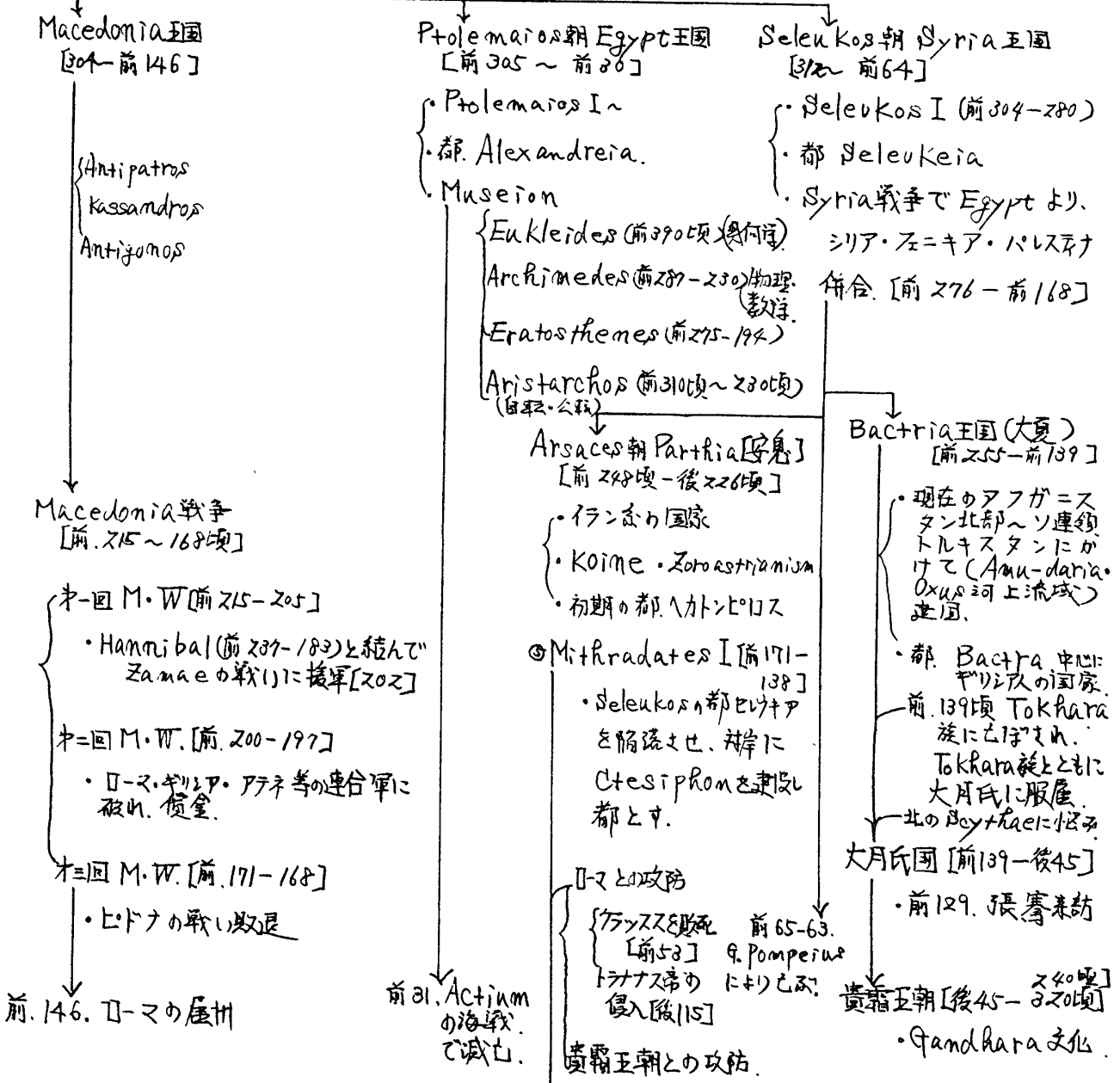
Susa にて集国結婚式

→ Persepolis. 東方へ → 前. 323. Babylon 病没

* 武持の高級と

内紛
{ Kallisthenes (-332)
Parmenion (-320)

前. 323 ~ 280. 後継者争い. (Diadochoi W. Epigomoi W)



※個人倫理の時代.

- Epicureanism の hedonism.
 - atomism.
 - ataraxia.
- Stoicism の cosmopolitanism.
 - apatheia.

※運動と感性重視の彫刻 (⇒ キリシアの均整)

- Laocoon 像
- ミロ島のヴィーナス像.

後226. Sasan 朝 Persia [226-642]

○ Ardashir I [後226-241]

Shapur I. [241-272]

- 貴霜朝を支配, 都 Ctesiphon.
- シリアを P. S. と争う

後. 5 ~ 6 世紀. 混乱 ←

○ Khusrro I [後531-579] 中興

後. 642. Nehavand の戦い. 滅亡.

Mandichaeism (Mami 神祖, 後3世紀)

(後3世紀頃 Zerd) ↑ Avesta. 国教, Zoroastrianism.

Ephthalitai (白匈奴) の侵入に起因.

Mazdak 教 (原始共產主義的) の流行.

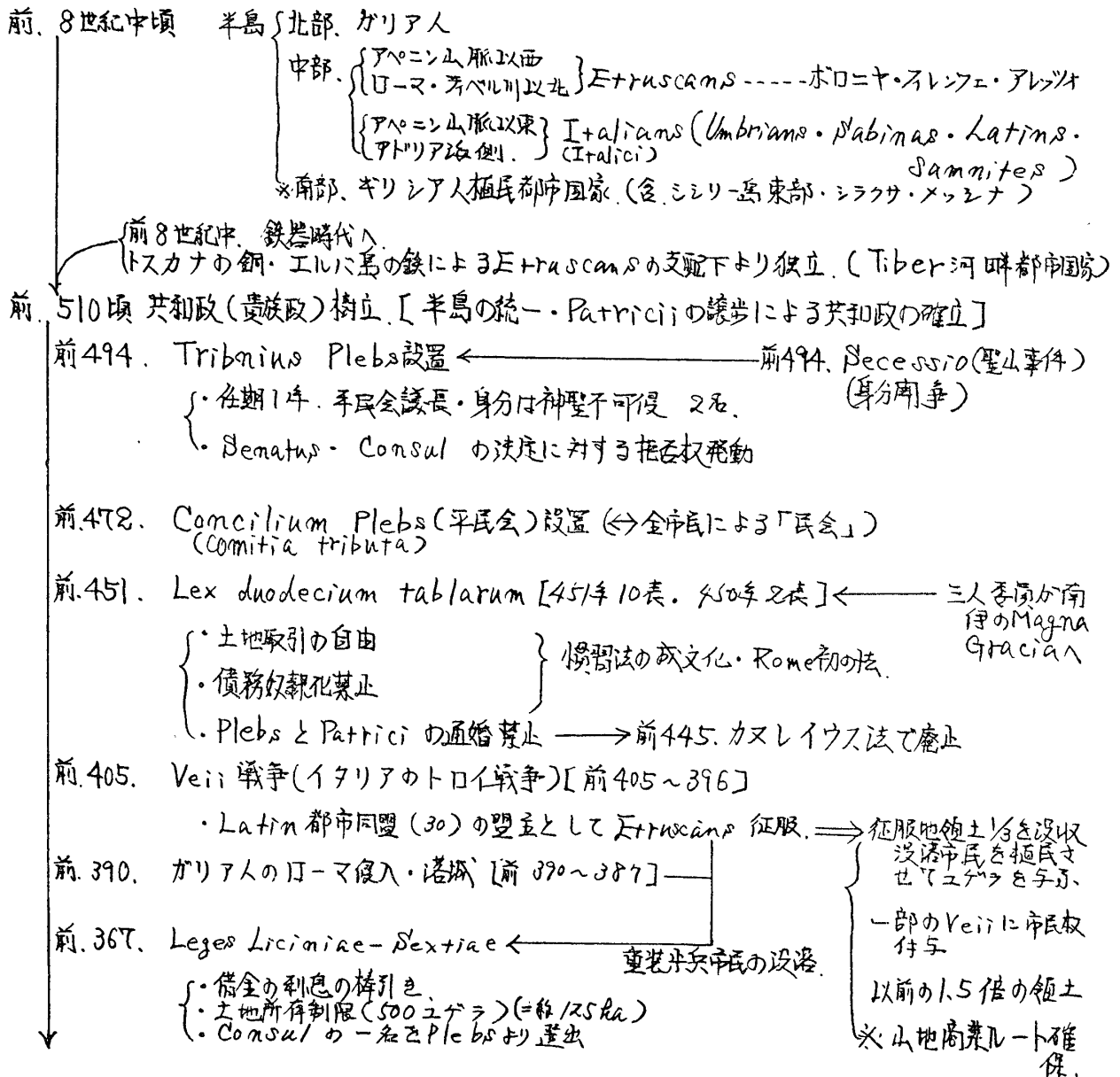
Nestorian 派 流行.

2. Rome 帝国の興隆.

○ [都市国家Rome の発展]

※ The ring, Rudolf von (1818-92) [独] 『Geist des römischen Rechts auf den verschiedenen Stufen seiner Entwicklung』 (1852-65) (ローマ法精神) で、「ローマは三度世界を支配した。オ一は武力、オニはキリスト教、オ五はローマ法で...」という。「すべての道はローマに通ずる」(『寓話』)・「ローマは一日として滅ばず」(『トシホテ』)等も、含め、ローマがヨーロッパ文明に如何に大きな存在であるかを示す。

それは、既述の、Leopold von Ranke [独] (1795-1886) の考えからも想定できる。即ち、地中海周辺の異種の文化・文明 (エトルリア文化・ヘレニズム文化・エジプト文明 etc.) を統一世界としたこと、キリスト教・ローマ法などの普遍的価値の創造に関わったこと、ヨーロッパ文化・ビザンツ世界・オリエント世界を遺産として生んだことなどによるのであろう。



前 343. Samnium War [前 343 - 290] ⇒ "divide et impera" 確立.

- ・ 才一回 [前 343 - 341] ← カポアが Samnium に攻撃され救援依頼.
- ・ 才二回 [前 326 - 304] ← Magna Graecia のギリシア植民都市と結び戦う.
* Via Appia (カポア。ローマ間の街道建設)
- ・ 才三回 [前 298 - 290] ----- Umbrians, Etruscans, Sabines 征圧.

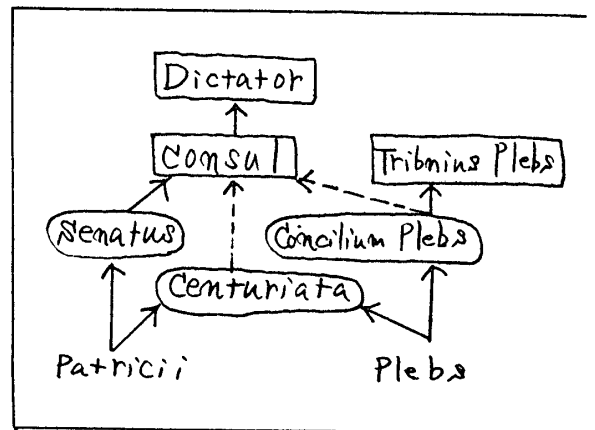
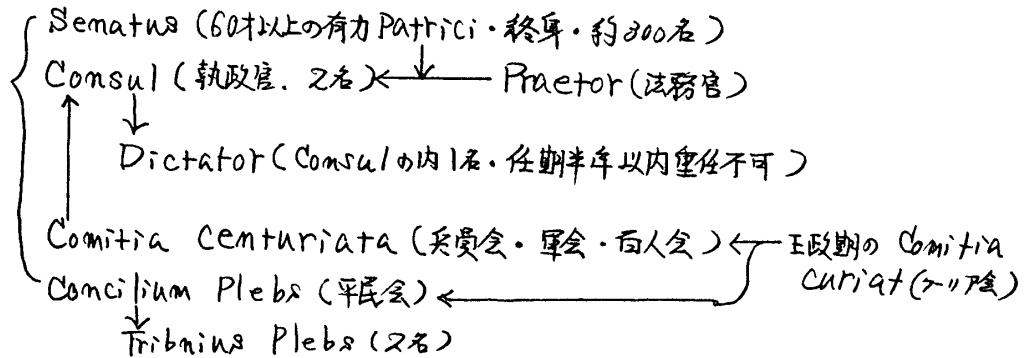
前 287. Lex Hortensia ← Plebs が才二回市民総退去した際, Hortensius が

・ Concilium Plebs の決議 Dictator に選出され, 翻侍 [前 287] がそのまま国法となる.

- * (後に前 172, Consul が二名とも Plebs より選出可)
- * (前 200 頃迄, 官職のすべてが Plebs に開放されたが, ギリシアと異って, 無給であつたため, 徹底したギリシア民主政とは別のものである.)

前 282. ~ 272. Magna Graecia の中心 Tarentum を陥す. 半島統一完成.

* Rome の Republic.



前3世紀半ば、海外征服と社会の変遷 [地中海進出・共和政の危機]

前264~146. Punic Wars (Rome X Carthago) ← Appianus (後2c)

・オ一次 P.W. [前264-241] -----> 僦金・サルディニア島・コルシカ島・シシリー島
(最初の海外領土 = Provincia)

・オ二次 P.W. [前218-210] (Hannibal 戦争)

前216. Cannae の戦い. Hannibal 軍(5万) により 8万の Rome 軍大敗
前202. Zamae の戦い. Scipio Africanus Major (前206-183)

※ Fabius (? ~ 前203) の活躍

↑ 1884. "Fabian Society"

↳ Carthago 逆上陸. (Hannibal 大敗)

↳ Spanische (Carthago 領) を Provincia.

※ 前190 Seleukos 朝 Syria より、小アジアを奪う → 前64. Syria 滅亡

前215~前146. Macedonia 戦争.ギリシア・マケドニアを征服.

・オ三次 P.W. [前149-146] -----> Scipio A. Minor (前185-129) による完全征服.
(Polybios, 前201頃~120頃. 従軍)

ギリシア人. 前168. 奴隷としてローマへ. Scipio に敬愛された. 『Historiae』 歴史 (40巻) は、実用史学の端で、ローマが一人支配・貴族政・民主政の混合政体であることを巻頭の根拠を記して、政体循環史観に立つ歴史書として著名.

Scipio A. Major の長子の養子. Polybios. Pamaitios (前185頃~前99頃のロードス生まれのギリシア人・ストア派の哲学者) を師とし. 大スキピオの娘 Cornelia の娘で. Gracchus 兄弟とは不縁にあたる女性と結婚. 義理の兄弟である Gracchus とは政治的立場を異にする.

※ Punic Wars 以前の征服地 --- "divide et impera"

- 同盟市 (socii) 都市国家 Roma と対等, Roma 市民権なし.
- 自治市 (municipium) 私法的な市民. 被征服地. Roma 市民権なし.
- 植民市 (colonia) 公・私とも Roma 市民の都市 (植民先口)

以後の征服地 --- 基本的には divide et impera.

Provincia (「属州」として 総督の支配 (実質的には、徴税請負人 Publicani - 騎士 Equites 階級の搾取)

※ Rome の地中海への拡大 Spanische [前197]・Macedonia [前146]・小 Asia [前133]・Pergamon [前129] → Galliae [前50]・Egypt [前30]

※ Latifundium (「大土地所有制」 Latus 広い. fundus 土地) ----- 果樹 (オリーブ・ぶどう)・牧畜経営.
↑ (奴隷の増大)

安価な果樹産物・農産物
有力 Plebs の商業交易従事 } → 自作農 (= 重装歩兵・市民) の分解 } → 市民の遊民化・私兵化 (proletarius)
Equites 階級の抬頭

前. 2世紀末 ~ 前1世紀末. [内乱期・革命の世紀] — R-マ帝国の成立へ. (海外遠征)

↑ 対立抗争 { Optimates 「閥族派」(最もよき者) — 元老院を代表
*
Populares 「民衆派」(平民派) — 平民を代表

前113-101. Cimbri Teutones 戦争 ← Populares の Gaius Marius (前157-前86) 平定 (兵制改革)
{ Cimbri 族 --- エトラス半島原住の Germanic 系
Teutones 族 --- エトラス半島根本部原住 Celtic 系

前111-105. Bellum Jugurthinum (北アフリカヌミディア王) ← Gaius Marius 平定
(Gaius Sallustius, 前86-34. 『ユグルタ戦記』)

前91-88. Bellum Sociale (同盟市戦争) (イタリア戦争)
↑ (護民官ドルススが市民権を同盟市に拡大する提案を元老院に提出したが否決された暗殺 = Gaius Gracchus の政策をうけて)
↓ (全イタリアの同盟市が連合し「イタリア」を組織し、コロッセウムに都し独立せんとす)

Rome の 譲歩 と Lucius Cornelius Sulla (前138-78) の 平定活動.

前90. エリウス法. (全ラテン人・反乱未加盟の同盟市市民に Rome 市民権与)
前89. プラウテウス法. (ホー川以南の自由人で60日以内に投降した者へ)
前89. (ルビコン川以南の全自由民へ) ⇒ 前49. ロスキウス法でホー川以北へ]

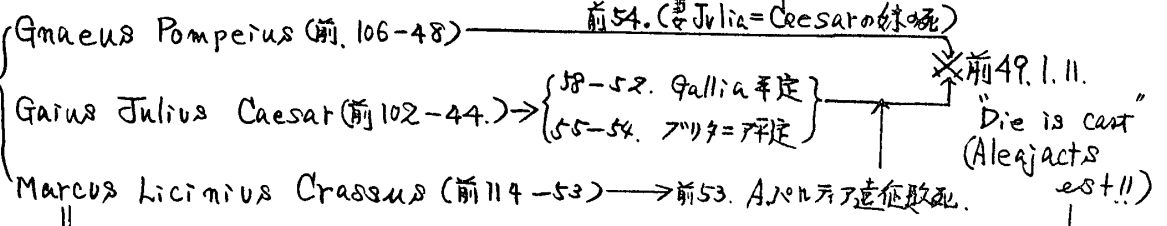
前88-63. Mithridates の反乱. (小アジアポントス王) ← G. Pompeius (前106-48) 平定

前73-71. Gladiator (Spartacus) の反乱

前1世紀の奴隷 約 150万 ⇔ R-マ市民 約 250万.
Gladiator (剣奴) の試合の初めは. 前264頃 (Punic W 開始期)
前2世紀には. 国家公認の行事となる = 「パンと娯楽物を要求する平民」の存在.
紀元後1世紀には. 国家的休日 159日であったが. 後3世紀には. 200日に休日が増大し. 内. 175日間 colosseum で闘技が行なわれた.

海外征服と内乱平定を私兵化した軍隊で
行ないながら存続者の出現.

前. 60~53. 才一回三頭政治, Triumviratus



前. 46~44. 3. 15. G. J. Caesar. "Imperator" と称され

- Provincia 政治の改革. (Pubricani の廃止)
- 金貨 (アウレウス金貨) の铸造 (→ スパルナリア, シベリア, セシル, アフリカ・中国に発見)
- "Julius 暦" 改正施行. (独裁化?)
- 『Commentarii de Bello Gallico. ガリア戦記』 --- ヨハン 散文の傑作
- 『De bello civili, 内訌記』

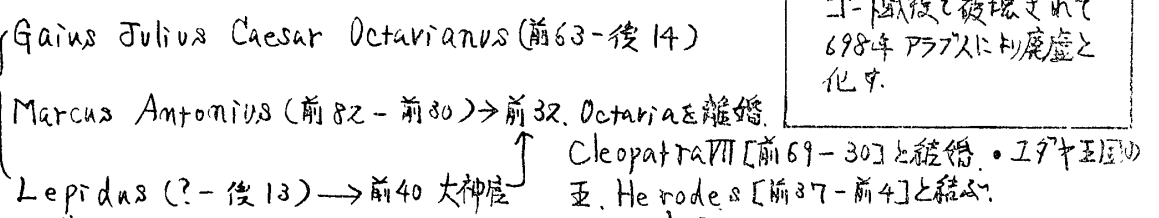
→ 後には
終身の Dictator
• Consul
• Senatus 議員と
なる。

前48. カリヤの
ゾルカロスの戦い
前48. P. Egypt へ
逃亡. 暗殺さる。

- Carthago の復興 (Octavianus に受け継がれる)
- 前44. { Brutus (前85-前42) } 共和主義者にお暗殺さる。
 { Cassius (前?-前42) }
- 前42. フィリッピの戦いで. Octavianus・Antonius に敗死。

→ 屬州アフリカの総督府設置
帝政期を通じて Rome・
Alexandria にフク都府
Augustinus (後 354-390)
を生ま. 後. 439年には.
Vandal 王国の都府となす。
553年. 東口-マ軍におり
ゴト城役を破壊されて
698年 アラブスに初廃虚と
化す。

前. 43~32. 才二回三頭政治, Triumviratus. (「国家再建」委員)



前31. Actium の海戦 → 前30. P. Egypt 滅亡.
(= Hellenism 時代 終る)

→ 後. 66. 5. Nero 帝 毒殺・弾圧.
後. 70. 9. Flavius 帝により.
イェルサレム 巨鎮ととも
に. Diaspora の民へ

MEMO.

前 27. Principatus (← Princeps Senatus) 元首政 [帝政前期] [前27年~後284]

Augustus [前27-後14] ← --- 『Res gestae divi Augusti, 神皇アウグストス業績録』

- Senatus を尊重しながら 適度権力の整備.
- 対外和平と、志願による常備軍 (30万) — (他民族でも軍隊に入ると市民権付与)

↳ Tiberius 帝 [後 14~37]・屋州からも兵を募る.

※ [Augustus の平和] を初まりとする [Pax Romana] (約200年)

- AD9年、トイブルクの森の戦いで敗れ、国境をエルベからライン河まで後退
- 徴税請負制度を全廃
 - ↳元老院統治州 (治安のよい屋州 — 任期一年の知事)
 - ↳ 皇帝直轄州 (治安の悪い屋州 — Egypt など — 皇帝直轄法務官)

- Rome の美化. — 「石は煉瓦のローマを大理石のローマにした」 (人口100万~120万)

↑ Marcus Vipsanius Agrippa (前62-12)

- Actium [前31] で活躍し、前21年、Augustus の娘 Julia と結婚、Augustus の右腕として、Pantheon・水道・公共浴場建設などの指揮にあたり、ローマの地理を調査させる。

↓

{ Strabon (前64-後21) [ギリシア人] の『Geographia, 地理誌』

{ Plinius (後23-79) の『Naturalis Historia, 博物誌』

※ 後79.7.24. ヴェスヴィウス火山爆発 (ポンペイ/ナポリ)

- 文芸の保護. ラテン文学の黄金期 (ギリシア文化の模倣より) ← --- Cicero [前106-前43]

Vergilius (Vergil) (前70-前19). 『Aeneas』というローマ建国叙事詩 (Odyssey のローマ版) により、ローマ最大の詩人とされる。

Titus Livius (前59-後17). Augustus の依頼により、『Ab urbe condita libri, ローマ建国史』 (建国~前9年迄のローマ史) を著す。

Horatius (前65-前8) 『叙情詩集』

Ovidius (前43-後17) 『Metamorphoses, 変身譚』 (詩)

Cicero [前106-前43] の弁説・『Laelius de amicitia, 友情論』・『De republica, 国家論』で著名

* 季節風貿易による地中海・紅海・ペルシア湾・インド洋の交易 = Pax Romana の経済.

↑ 『エリュトラ海案内記』 (Erythraei)

↓ Tiberius [後14-37] (Augustus の養子)

↓ Caligula [後37-41]

↓ Claudius [後41-54]

→ Nero [後54-68]

{ Paulus (?~14頃) (27年系ローマ市民)

• Petrus (?~64頃) 殉教.

Lucius Annaeus Seneca
前5~後65 (ストア派哲学者)

後. 96~180頃 五賢帝時代 ("人類の最も幸福な時代") --- 養子制という形をとった帝政

※ Colosseum [後80~404]の見世物・雇州の経済的向上・Latifundiumの干振(奴隷制)

Nerva [96-98] { Lex Alimentaria (食物無償配給制度) で貧民救済、
 軍事部門を Trajanus に
 Trajanus [98-117] [スペイン生 = 初の雇州出身皇帝]
 { Dacia (ドナウの北・現ルーマニア) 征服 → 捕虜50万を Gladiator とす (※ Latifundium 奴隷)
 { Armenia (黒海南東岸) 征服 [114] [125]
 { Ctesiphon (Arsaces 朝 Parthia の都) 攻略 } = Rome 領土最大
 Tacitus (後55-115) Germanicus (98)

Hadrianus [117-138]

{ Hadriano Polis を造営し、国境を Euphrates 河まで後退
 { 滞納税の帳消し
 { 主人による奴隷の殺害禁止令 ← { Augustus 帝より始まる Pax Romana = 奴隷抑圧
 { Nero 帝 [54-68] の奴隷の虐の警察法 (不当な扱い禁止)
 { Antonius Pius 帝 [138-161] の奴隷の神殿への逃亡
 奴を罰し厳格
 { Marcus Aurelius 帝 [161-180] Graduatori による
 見世物禁止
 3c 初、国有奴隷は、遺言をもって、その財産の2分の1
 を自由にできる。
 4c 初、Constantinus 帝
 奴隷が主人を告訴できる。

Antonius Pius [138-161] キリスト教迫害禁止令、

Marcus Aurelius [161-180] (『大秦國王安寧』 - 『後漢書』)

{ Graduatori による見世物禁止
 { 滞納税の帳消し
 { Stoa 哲学 (哲人皇帝) - 『Ta eis heauton, 自省録・瞑想録』
 ↳ キリスト教迫害
 { Nemesia (前4-後65)
 { Epiktetos (後55-135) (ギリシア人奴隷)

※ Ptolemaios Klandios [後2世紀] (ギリシア人)
 ・ Alexandria 天文観測
 ・ 『Megale Syntaxis 天学大全, Almagest』を著し天文学を確立した。

Commodus [180-192] (暗愚)

税収の不振 ⇒ 都市への重税 - 地方への人口流出と地方・地域主義の時代へ。

後. 193~284. Barrack Emperors [Soldaten Kaiser] - Principatus から Dominatus

Lucius S. Severus [193-211] [北アフリカ出身 = 非Europ 世界初の出身皇帝] 過渡期

↑ 政治顧問 { Aemelius Papianus (146-212) [ギリシア人]
 { Domitius Ulpianus (170-228) [ギリシア人]

Caracalla [211-217]

{ 212. Antoniana 法 --- II-マ市民権を全雇州自由民へ拡大、
 { 貨幣改鑄・大浴場。

Maximianus [235-238] (トラキア出身・兵卒) ~ 284年迄の26人の皇帝 = 秘儀の軍人皇帝
* Colonus (土著農夫) 制入. * Sasan朝 [226-642] の2代目 Shapur I [241-72] の2代目

284 ~ 395. Dominatus 政 [帝政後期] ← "Dominus" (奴隷に対する"主人"の意)

○ Diocletianus [284-305] の Tetrachy ----- (帝国の四分を意味せず、四人が1つの帝國を維持する)

- Augustus Diocletianus (Nicomedia) ノアビア ~ エジプト
- Caesar Galerius (Sirmium) ドナウ河南地帯 ~ ギリシア
- Augustus Maximianus (Mediolanum) イタリア・北アフリカ・スペイン
- Caesar Constantius (Treverorum) ガリア・ブリテン島.

• "Dominus" (主人) ← Persia 宮廷の跪拝礼の導入

→ キリスト教大迫害 [303]

• Senatus の全廃 (共和政体の完全廃棄)

○ Constantinus I (大帝) [324-337] ← [Caesar. 306-24] ← Constantinus Chlorus

• 313. Milano 勅令 (キリスト教公認) --- 自らも皈依し、II-マの神女にかえて保護

↳ 教義論争 (Arius 論争)

• 325. Nicaea 教会会議 (皇帝親臨) --- Eusebius (263-359頃) の副席 ← (『教会史』・『年代記』に相若む)

[Athanasius (296-373) 「教会の柱石」 --- 『Trinitas, 三位一体説』 → Catholic

[Arius (250-336) [ギリシ人] --- イエスは、父なる神の被造物であくまでも、人肉性を有する。

→ Arius 説は、北方 (German人) へ (奥端として) { Goths 族, Lombard 族 } 東 German, Vandal 族

* 431. Ephesus 宗教会議 (東II-マ皇帝 Theodosius II 世のもと)
Nestorius (?-451) (Constantinople 総大司教 428-31)
の主張した Nestorius 説が異端とされ追放さる。⇒ 唐代「景教」
(マリアは「神の母」ではない。イエスには神性と人性とが存する)

• 330. Constantino Polis (旧 Byzantium) を「第二の Rome・新 Rome」として遷。

↑ 旧勢力 (Senatus) をさけ、ドナウ方面の対 German 人・S. Persia に対抗。

• 332. 「332年の勅法」 --- 身分・取業の厳格なる固定化。

↳ Colonus (= Servus Terrae・土地の奴隷) 制度確立。

○ Julianus [361-63] 「背教者」 (Apostata) ←

↑ 新アタトン主義。
ギリシア哲学者好む
キリスト教大迫害。

Constantinus I の甥。355 Caesar 任
せられ、ガリア時代に貢献した。部下に
おされて、360. パリにて Augustus に
なり、首都入道軍中 Constantinus II
の忠死で無血入城。

o Theodosius I [379-395] (スペイン生)

- 380. Thessalonike (Balonika) 勅令 (国教化)
- 392. 異教 (Pagani)・異端 (Heretic) 厳禁 (国教化) →
- 375. Visigoths の侵入 (ドナウ渡河し、バルカンに入り、パンニア地方に自治を許され定住 (→ Alaric の下再移動し 410年) ローマを占領し、更にイリアリアへ)

393(4) Pagani の祭典として、前々76年
以来の Olympic games
廃止する。
↓
近代 Olympic games
は、1896年より。

※ Aurelius Augustinus (354-430)

Church Fathers Age I [~5世紀] (dogma の確立・『The New Testament, 27巻』の成文期・迫害から公認を経て国教化されるも、帝国の解体を迎えた時期) と、Schola Age [9世紀頃~15世紀] (中世ヨーロッパの精神として存立~) の近代最後の教父・中世最初の神学者として位置づけられる。

354年、北アフリカ、ヌミディアのタガスタに地主の長男として、熱心なカトリック信徒モニカを母として生まれる。370(16才) Carthago に遊学し、放蕩な生活をおくる。Mami-chaeism (3世紀、Mami により創始された二元論宗教で、ゾロアスター・キリスト・仏教を融合した宗教で、Sāsān 朝は禁止 → 中国・南仏へ) に入信する。383年ローマへ、384年、ミラノで修辞学教授。ここで、司教 Ambrosius (339頃-97) に会い、386年8月キリスト教へ回心。391年(ほぼ国教とされた年)、ヒッポ・レギウスの司教となる。この間、数々の論争の中で、『Confessiones, 告白』(397~400頃)、『神の国, De civitate Dei』(413-426) 頃等を著し、古代の信仰の諸問題に大急的の解説を施す。Vandals 族の進攻の中で 430年没す。

- o 『Confessiones』(13巻)
 - 1~9巻、幼少時代~ミラノにおける回心 [生活編]
 - 10巻、執筆当時の自己告白 [思想編]
 - 11~13巻、『創世紀』の解説

o 『De Civitate Dei』(22巻) — 「異教徒を駁す」(sub Title) — 「地上の国」と「神の国」

ローマの伝統的な神々を信ずる人々に対して、German 人の侵入はキリスト教のせいではないことを立論している。

o 子息二人に、東西 Rome を分与する。= ローマ帝国の二分 [395年]

東ローマ帝国 [395-1453] — Arcadius [395-408] — 『ローマ法大全』(529) Justinianus [527-565] (Byzantine 帝国)

西ローマ帝国 [395-476] — Honorius [395-423]

↓
Odoacer (488-493) の王國 [476]
東 Gothic 王國 [493-555頃]

第3章 西アジア世界

[Bactria, 大夏] [前255-前139]

[Arsaces朝 Parthia, 安息] [前248-後226]

[Sasan 朝 Persia] [後226-642]

第4章 南アジア・東南アジア世界

※南アジア世界---インド亜大陸の歴史的・文化的世界.

Indusvalley civilization・Buddhism・Hinduism・Caste・Mughal・Sepoy
Mahatma Gandhi・P.J. Nehru・etc

※東南アジア世界---インドシナ半島・インドネシア・フィリピン等の熱帯モンスーン下の地域で、インド文明・中国文明の両影響下に特異な歴史的世界を形成。

Funan (扶南)・Champa (林邑) ~ Srivijaya (室利佛逝・三佛齊)・Majapahit
Pagan (緬甸)・Toung・Ayuṭṭhāy・大越国 (吳・李・陳・黎)・越南 (Viet-Nam)
etc.

1. インド文明の起源 → (倫理のフリット参考)

※ Indo ← Arya 人のインダス河の流域「Sindhu」(Sanskrit) のペルシア語「Hindku」ギリシア語「India」

※石器時代--- { Billa Sargam 洞窟 (マドラス地方ガルヌール) --- 旧石器
{ Ghormangur 洞窟 (北インドミルガムール地方) } --- 中石器
{ Singanpur 洞窟 (中部インド・ライガール地方) }

[Indus valley civilization] (Harappa c.) (前2300頃~前1500頃)

- ※ Harappa (現 Pakistan・Indus上流 Punjab地方) --- 1921~発掘 東面200m, 南北400m の城塞都市
- Mohejo-Daro (現 Pakistan・Indus中流・「死の丘」) --- 1922~発掘
- Lothal (現 Indo・Cambay湾)

※城壁を有し、焼煉瓦製の家屋が排水溝・沐浴場・集会場(市場)などを具備して整然と造成さる。但し大規模な宮・神殿の存在は未確認。Mohejo-Daroなどは人口3万前後の都市と考えられ、象形文字(Indus文字)(未解読)の印章が多数発見され、木綿の使用も確認されている。前1800年頃より、Indus河の流路の変化・水位の変化により衰退した。

※この文明の担当民族は不明なれど、(Austro-Asia人説 — 現在のムンガ人・カンボジア人 etc.) Dravidians (現 Tamil 族) が有力な説。

前1500頃~ Aryansの南下

前1000頃~ Aryansの Ganges河流域への再移動・定住化(農耕生活へ)

{定住・農耕生活化} = 階級分化 ← 前800頃には鉄器時代へ
{征服活動}

} --> 『Mahābhārata』
『Rāmāyana』等の
舞台の時代は
『Veda時代』

Varna(「色」)(種姓制度)の形成(〜前500頃迄) → Vasco da Gama (ポ
ーガル) がこれを「内
婚的身分制度」とし
てCaste(種)を語
源とする「Casta」(血
統・純血)と命名。

- Brahmana 婆羅門
- Kshatriya 刹帝利
- Vaisya 毘舍
- Sudra 首陀羅

※Pariah (untouchables・out caste) (不可触賤民)

婆羅門文化 — Veda(「知識」)を聖典とする文化。(Brahmanismの文化)

前6世紀頃 十六王国時代

- Kosala王国 --- Prayastj (舍衛城) 中心に Indus 中上流 域支配。
- Magadha 国 --- Rajagriha (王舎城) 中心に Indus 中下流 域支配。
- etc.

- Rig-Veda --- 神々の讃歌
- Sama-Veda
- Yajur-Veda
- Atharva-Veda

夫々が更に本集・祭儀・森林書 奥義書 (Vedanta) の四部材 成る。

↓ 鉄製農具の普及

[前6~5c] Brahmanism に対する改革運動

- ※ 此の思想が輪廻転生をベースにしている
 - Upanisad 哲学 --- Vedanta に於ける Brahman (梵) と Atman (我) の一致
 - Buddhism --- Gotama Siddhartha (悉達多・前. 56 - 483?)
 - Jainism --- Vardhamāna (Mahāvira 大勇) 前. 529 - 477)

※ 前. 477頃 Ajātasattu 王 (阿闍世) [前. 491 - 459] の許才一回伝説結集(?)

2. 統一国家の出現.

前317. Maurya (孔雀) 王朝 [前317 ~ 前184頃]

祖. Chandragupta [前317-297] (ギリシア名 Sandrokottos)

- Magadha 国の武将の彼が Nanda 朝を倒し、Alexander の東征 [前334-323] 侵入 [前326] 末期に統一.
- 都 Patliputra (現 Patna) (華氏城・華子城)
- Seleukos 朝 Syria [前312-前64] と用い、ギリシア勢力を退けてアフガニスタンを奪う。(Afghanistan)

3代. Asoka (阿育) 王 [前268-232] (天愛善見王)

- インド半島南端の Cera を除き全インドの初統一、← 半島東南部 Kalinga 征服
- 仏教に帰依し、保護 = dharma (法) による政治 (異なる民族・文化を包括する意)

- 前261頃 才三回仏典結集 (→ Pali 語仏典) ←
- Seylon 布教 — 王弟 Mahinda (?-前200頃)
 - ↳ 南伝仏教
 - 磨崖碑・石柱碑の建立 ~ 療養院・施薬院・貯水池・橋等の建設.
- 前477頃 才一回仏典結集 Magada, Rajagriha (王舎城)
- 前377頃 才二回仏典結集 Magada, Vesali (Kaisali) (上座部 & 大衆部)

*バクトリア(ギリシア人)の侵入・Asoka 王の死.

混乱.

前1世紀. Satavahana (Andhra) 朝 (Dravidian系) [前1c ~ 後225] ⇔ (南部 Pandya 朝) [前4c ~ 後3c]

- 都 Pratisthana (現 Patnan) 中心にデカン高原支配.
- Egypt・Rome との「季節風貿易」(『エリュトラ海案内記』) で栄え、銀行業・同業組合の発達
- 文運栄える 『Sattasat』 『Brhatkatha』
- Brahmanism の復活 — 『Manuの法典』の原型.

後45. Kushana (貴霜) 朝 [後45 ~ 240頃]

祖. Kadphises I (丘就卻) [後45-77]

- 都 Purusapura (現 Peshawar) を中心に、シル河以南を治め Tarim 谷地に進出.
- Gandhara (健陀羅) 美術. ↳ 後漢(班超)

*東(後漢)・西(ローマ帝国)とシルク・ロードで結ぶ東西交易の利益で栄える.

3代. Kamisrka [後. 130-173] (全盛期)

- 才四回仏典結集 (→ Sanskrit 仏典)
- Purusapura 中心に Gandhar 美術盛揚
- 後2c ~ 3c 後半, 仏教詩人・哲学者輩出.
 - Nagarjuna (竜樹) · Asvaghosa (馬鳴) --- Makayama (⇔ Himayama)
 - (後4~5世紀, Asanga 無着 (後310-390) · Vasubandhu 世親 (後320-400))
- Satrap 各地へ派遣.
- 金貨鑄造 (← U-マの Aurei 金貨を模して).

死後乱れ. Sasam 朝 Persia に移住する. [後 240頃]

後. 320. Gupta 朝 (再統一) [後 320 ~ 550頃]

祖. Chandragupta I [後 320-35] (Maharajadhiraja 諸王の中の王) (320. 2. 26 Gupta 朝)

- 都. Pataliputra (華氏城) 中心に, 封建的な支配体制 (→ 5c 都 Ujjain へ南遷)

3代. Chandragupta II (超日王) [後 376-415]

- インド大叙事詩 『Mahābhārata』 (18編) · 『Rāmāyana』 (7編) 等, インドのイソップ物語といわれる 『Pancatantra』 等が現在の形式を整える.
- インドのレイクスピア Kalidasa (4c) の 『Sakuntala』 (7幕の劇典) が, インドの Sanskrit 文学最高傑作として成立, 叙情詩 『Meghaduta, 雲の使者』 等を残す.
- 『Manu』 の法典が, 全12章 2685条の形式を整える.

※ Hinduism の聖典化 = Gupta 様式 (他インド 様式) の芸術

- 数学 (ゼロ) · 医学 · 天文学の発達 → アラビア 科学
- 仏教の神格化 (後者) ← 法顯 (337-422) 陸路入印 [399年] → 413年 獅子国 (Seylon) · 耶婆提 (シマワ?) を経て 海路帰国, 『仏国記』 (法顯伝)

※ 5世紀頃

- { Nālandā (那爛陀) 寺 (学院) [5世紀 ~ 12世紀]
- { 石窟寺院 { Ajanta (才二期) (才三期) --- → 法隆寺 (壁画)
- { Ellora (才一期)

5世紀末 トルコ系の Egyptianites (「白匈奴」) 等の侵入.

後 606. Vardhana 朝 [後 606-647頃]

祖. Harsha-Vardhana (戒日王) [後 606-47]

。都. Kanauj (「曲女城」←玄奘による) を中心に Ganges 流域のインド東北部を制圧。
。唐 [618-907]。2代高祖李世民 [626-49] との間に使節往来。

五玄策(?) { 643. Harsha の使節を送りて副使として来印。
647. Harsha 没後のインドへ。王位が奪われ出立していた者。チベット
の土蕃 [7~9c] 王. Srom-btsam Sgam-po [?-649]
に援軍を依頼し。混乱を平定。
858. 才を回来印。

玄奘 (三蔵) [602-64] --- 629. 陸路インド. Vardhana 朝へ。645. 陸路帰国
『大唐西域記』。『慈恩寺三蔵法師伝』

混乱

※ 義浄 (635-713) --- 672. 海路インドへ。695. 海路 Seylon 経由帰国
『南海寄帰内法伝』

※ 善無畏 (637-735) --- 716. 陸路長安へ。一行らとともに『大日経』を漢訳。才
6代玄宗皇帝の信を得。真言密教を伝える。

金剛智 (671-741) --- 720. 海路。洛陽へ。Seylon 僧不空 (705-774)
を伴って。

イスラム教・トルコ人の侵入。

[インドのイスラム化]

962. Ghazni 朝 [962-1186] --- 西北インドのイスラム化

1148. Ghori 朝 [1148-1215]

1206. 奴隸王朝 [1206-1290] --- 初のインドのイスラム政権。

1290. Khalji 朝 [1290-1320] } * Urdu (トルコ語と「碎語」語

1320. Tughluq 朝 [1320-1412] } が、トルコ人支配層のペルシア語

1414. Saiid 朝 [1414-1450] } とヒンディー語の混合による

1451. Lodi 朝 [1451-1526] (Afghan 系)

Delhi-Sultante

蒙古人の侵入。

[Mughal 帝国] [1526-1858]

MEMO

3. 東南アジアにおける国家の形成.

※前1500頃迄、Austro-nesian Language Family [オーストロネシア民族] (≒ Malayo-Polynesian 語族) (イースター島～マダガスカル島に至るインドネシア・オセロニアなどに中心とした島嶼部の住民となる人々)・Austroasian Language Family [オーストロアジア民族] (Khmer 族、をはじめ大陸部の住民となる人々)が、北・北西部より南下・定住し、続いて、Tibet-Burm 民族・Thai 民族が南下して、前13世紀以降定住してゆき、インドの文化の影響、次いで中国文化の影響をうけて独自の文化を築いていく。

◇ Srivijaya (室利佛逝=唐・三仏奇=宋) 王国.

[7世紀～14世紀]

- Sumatra 島中心に、Palembang を都。
- 「穀物の島」(ジャワ=ジャバ) → ジャワアイユ (アレイユ)
- Java 島中心に、移り、Sailendra 朝の時代 [9世紀]
- (耶婆提) Borobudur 仏塔 [9世紀]
- Candi Kalasam [8世紀]・Candi Mendut (10世紀前半)・Candi Prambanan (シワ神殿) (9世紀後半) etc.

元の遠征を退けて、

Majapahit 王国 [1293-1520]

- 祖 Radin Vijaya [1293-1309] が、Java 島の中部 Majapahit を中心に建国
- 1308年以降、元と朝貢貿易。
- 第4代、Hayam Wurk [1350-89] 全盛

※イスラムの侵入で衰退

17世紀初、オランダの侵攻 Batavia を中心に「東インド」(Dutch East Indies) → 1799 東部で解散を英領を経て、荷政府経営の植民地へ。

19世紀、東インド総督 Van den Bosch [1830-44] の下で、Cultuur-seftelse (強制栽培制) が施行され、コーヒー・さとうきび・藍 etc. が耕作させられた。

日本の侵攻

1945.8. Indonesia 共和国.

◇ Pagan (緬) 国 [1044-1287]

Pu (罽) 国など Tibet-Burma 系の諸国家を併せて、

- Irrawaddy 河中流の Pagan を都として Burma 初の統一国。
- 小乗仏教 (Pali 語聖典) 栄える
- ↓ 存続の Mon 文字と融合して、新しい Burma 文字成立 [11世紀]

元の侵攻で、1287 滅亡

一族が、Toungu 朝建ち

Toungu (Toungoo) 王国 [1531-1752]

英国の分つ材目的の侵攻に悩み、内乱。

Alaungpaya 王国 [1752-1885]

- Irrawaddy 河デルタ地帯の都 Ramgoun を中心に。
- Burmese Wars [1824-86]
 - 第1次 [24-26]
 - 第2次 [52] = 英の Burma 併合。
 - 第3次 [86] = インド帝国の併合。

* 1937. インド帝国より分離。

1948. Unity of Burma (ビルマ連邦共和国)

◇ Funan (扶南) [後1世紀~7世紀中頃]

- Mekong河下流域に、Khmer (Cambodia) 人から、インド文化 (シヴァ神信仰) を基に建国。

真臘 [6世紀~15世紀初]

- 後、陸真臘 (Laos・Cambodia北部) と水真臘 (Cambodia南部から、F Cochinchinaにかけて) に分裂、Srivijayaの Sailendra 朝に、水真臘が領土を奪われる。

- 9世紀初 Jayavarman II世 [802-850] が Angkor を中心に再統一 (Angkor 朝)
- 12世紀、Suryavarman II世 [1113-52] により、ワット又神聖とし Angkor Wat 建設
- 12世紀末~13世紀初 Jayavarman VII世 [1181-1225] により、Vietnam (Champa) に破壊された Angkor Thom [都城、9世紀] を再建

→ [真臘全盛期]

◇ Sukhothai 朝 [1257-1350]

- 8~13世紀にかけて、中国 (四川・雲南) 発位の Thai 族南下。
- 1283、Cambodia 文藝を改良して Thai 文藝成立。

Ayutthaya 朝 [1350-1767]

- Mae Nam 河下流の都 Ayutthaya 中心 (Sukhothai 南)
- 15世紀 Sakdi Na 制による階級社会形成 (≒ 隋唐)
- 山田長政 参朝 [1611-30]

→ Burmese の侵攻で亡く [1767]

Cha Kri 朝 [Bangkok 朝]

- [1782-現]
- Rama I世 [1782-1806] が、Ayutthaya のすぐ南、盤谷 (Bangkok) 中心に建国。
- 英 (南・西)、仏 (東) の緩衝国として独立を維持した唯一のアジアの国。
- 才次大遣は、板橋国側参戦

現 (Thailand) ← 他前は Siam (黒い人の住地)

◇ 前 Champa (林邑) [192-8世紀末]

- Vietnam 中部にインド文化 (サンスクリット語を用いて) の影響で建国。
- 中継貿易と香木の輸出で栄える。

後 Champa (占城) [10世紀-15世紀]

- 1011年、占城米の中国への移入

- ※ 10世紀以降の Vietnam 人の南下に阻み
- 11-12c Khmer 人の侵入に阻み
- 13c 蒙古の侵入に阻み

黎朝大越国 [1428-1789]

- 祖、黎利が明朝を遣って建国。 (1418-33)
- Hanoi (東京) を中心に (15世紀)
- 北部、鄭氏の自立 (Hanoi) [1527-1787]
- 南部、阮氏の自立 (Hue) [1527-1777]

※ 西山党 (Tay-son) の反乱 (阮氏) [1773-1802]

清 (乾隆帝) の黎朝援助を排し

混乱、西山党を仏人 Pigneau の援助で占領し

- 阮朝越南 (Viet-Nam) 国 [1806-1945]
- 祖、阮福映 [1806-20] (嘉隆帝) が Hue を中心に、1858-83、仏進攻、黒旗軍 (Pavillons-Noirs)

◇ 中国領海南地方 [前111~後939]

- 前漢 (武帝) の征服
- 9郡 (南海・鬱林・合浦・交趾・九真・日南・珠崖・儋耳) 設置。

中国の唐末五代の混乱に乗じて、ワット初代が独裁

呉王朝 [939-963]

- 祖、呉権
- 都、Ninh-binh (華南)

李朝大越 [1009-1225]

- 祖、李公蘊が、Hanoi (東京) を都
- Hue (順化) を進攻
- 仏教保護

陳朝大越国 [1225-1413]

- 大乗仏教保護
- 科擧の導入、儒学の盛行

↓ Tyu Nam (序喃) 成立、大越史記 成立

※ 三國 (57・84・87) の蒙古の侵入、明 (永樂帝) の侵入

《Cambodia 王国・Laos 王国・Vietnam》

第5章. 東アジア・内陸アジア世界

※ 東アジア世界 --- 現中国・ベトナム北部・朝鮮半島・日本・モンゴル等を含むユーラシア大陸東端の地域。この地域に区分すれば、秦嶺山脈・淮河以南の水田農耕の地域、秦嶺山脈・淮河以北の畑作農業の地域、モンゴル高原・中国東北地方(満州)・チベット高原等の狩猟・遊牧社会の地域となろう。日本やベトナムは、オーストラロイドの地域と考えられる。Mongoloidを主体とする人種によって、言語上は、Sino-TibetanやAltai語族をはじめとする複雑な構成を有しながら漢字文化を基調として特色ある世界を樹立した。

※ 内陸アジア世界 --- カスピ海を西の境として、アルタイ山脈・カザフ(キルギス)草原を北限とし、南はヒンドークシュ・コンロン山脈、東はゴビ砂漠を境とする東西に細長い地域で、大部分が草原と砂漠地帯の為「乾燥アジア」世界とも称される。これを更に二分すれば、天山山脈・シル河(シルダリア)以北の草原地帯(羊・馬・山羊・牛・駱駝の遊牧的世界)と、天山山脈・シル河南の砂漠地帯(オアシスの民による小規模農業と交易による世界)となるであろう。

この後者の地域こそ、前7世紀~前3世紀「スキタイ時代」と画したスキタイ・匈奴・突厥・ウイグル・モンゴル・ジュンガル等の遊牧騎馬民族の舞台である。このスキタイに始まる遊牧騎馬民族の文化の範囲内にあった民族が、鮮卑・契丹・高句麗 etc. である。

但し、遊牧騎馬民族の諸国家を古代的な「部族連合国家」(9世紀以前)と封建的な「国家」(10世紀の契丹以後モンゴル等)とに分けて考察するとわかりやすいであろう。その場合、他地域・文明に於ける「国家」の定義とこの地域に於ける「国家」のそれとが一致しないことは是認しなければならない。

1. 中国の古典文明.

[黄河文明]

○仰韶文化(彩陶文化) [前4000頃~] (新石器文化)

河南省仰韶村で、1921~23年、スエーデンの地質学者たち彩文土器発掘。→ **Johan Gunnar Andersson, (1874-1960)**. 1914~25年、北京、農商部地質調査所の顧問として北京滞在。この間、Otto Zdansky と Sim Anthropus Pekinensis 発見 [1927-28] の跡を辿る。

彩陶 --- 1000°C 前後で焼かれた鉢型土器。末期には、瓦片土器の鼎(い)出現。

○龍山(鎮)文化(黒陶文化) [前2000頃~]

山東省城子崖龍山鎮等で発見。うす手の老沢のある黒色土器・瓦片土器。(灰陶を伴う)
氏族共同体の大集落(土壁を有した) --- 牛・馬を飼育した大村落農耕文化、遼東半島から、黄河流域・長江流域に広がる。

○半坡遺跡(陝西省西安)・大汶口(山東省泰安県) ecc.

[都市文明 一般・周]

○河南省を中心、黄河中流域に発達した青銅器文明。

殷 [前1600頃~前11世紀]

河南省安陽県小屯村近郊「殷墟」(『史記』, 司馬遷がいう「大邑商」(商邑)) 発見。
↑ [大邑一王族の居住する王都・族邑一従属氏族の集落・屋邑(小邑)一本村落]

甲骨文字 (1903, 拓本集が『契雲蔵書』として刊行する) --> 羅振玉・王国維ら解説。
[殷, 第22代, 武丁の時代, 即ち, 殷後期に入る前14世紀末より出現する, 商人(卜官)が占う]

※ 巨大な玉墓・副葬品 (饗饗文の青銅器・象牙細工・玉琮 ecc) 「卜辞」

※ 甲骨文字 (吉凶の卜, 干支・曆一陰曆)

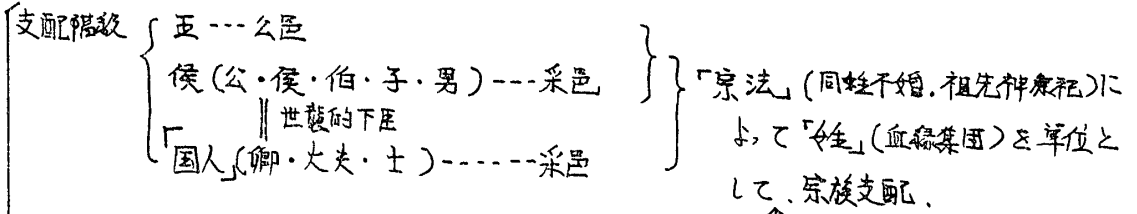
- ① 祭政一致の神権政治 --- 方伯制度 (伯=都市国家の長, 方伯=伯の頭) の上にて,
- ② 兄弟相統 (前期) から父子相統への変化,
- ③ 巨大な玉墓 --- 専制君主の権威と権力の所産
= 死して, 共同体の宗教儀礼の対象に列せられるに至った者への祭祠の象徴.

紂王の時,

「革命」(「放伐」) = 前, 1027頃, 牧野の戦い,
(武王克殷の戦い) ← 『易経』

周 (西周) [前 1027頃 ~ 前 771頃]

都、鎬京 (陝西省渭水盆地、現、西安付近) を中心に、華北を支配。--- 東都 (洛邑 - 現、洛陽)
支配体制 [人・国人・民の身分秩序]



※ 「礼」に従って「血統原理に基づいて」「采邑」が賜与される = 封建制度 (封国建侯)

※ 生産関係を基礎とするヨーロッパ等の Feudalism とは異なる。

↑
しかし、畢竟とは、「氏」(本来は土地による区別)が軍位となり、魯・衛・齊 などの氏名を 爵 とともに賜与 → 「爵」の轻重を問う

被支配階級 「民」(鄙の住民) ----- 「社」(地縁的な共同体)

※ 木製農具によって、禾 (あめ)・黍 (きび)・麻・を栽培 (麦の比率が程々に上昇)

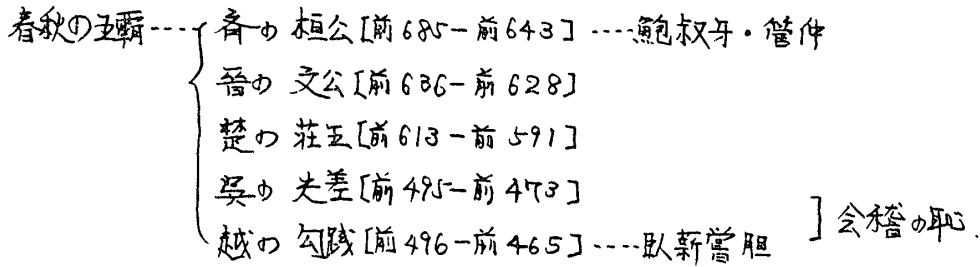
※ 稲作 (田) は、三国時代 (後3世紀以降の江南の開発までは、比率小)

山西の晉・山東の齊の抬頭・犬戎の侵入 (夷・戎・蛮・狄)

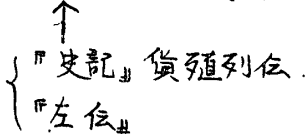
東周 ≡ 春秋時代 [前 770 ~ 前 403] ← (東周の滅亡は前 256年)

※ 周の東遷 (都 洛邑) から、晉が三分して韓・魏・趙が独立する迄の 400年弱の時代で、孔子の編といわれる魯国の年代記 (前 722 ~ 前 481 頃) の「春秋」により命名。

※ 周王室の権威は尊重されている。諸侯は「覇者」として夷狄にあたる (尊王攘夷)



※ 鉄器時代 (鉄鋳) へ入る (前 6世紀頃より) → 牛耕による鉄製の犁



戦国時代 [前403-前221] ←----- 司馬光 (1019-1086) 『資治通鑑』 (戦国~唐末に至る編年体史書)

※ 晉が韓・魏・趙に三分 [前403] から秦の最初の中国統一 [前221] まで.

※ 戦国の七雄 (秦・楚・燕・齊・韓・魏・趙) が王を称し、自領の拡大と富国強兵に務め抗争.

↓

{ 周の封建制度・身分制が各国の人材登用により崩壊、→ 中国思想の黄金期.

{ 各国の対立と富国強兵策 (鉄製農具「犁」普及) → 常設市の発達

{ 邑の解体と、家長権の伸長と小家族単位の家族へ.

※ 真貨から青銅貨幣の時代 (春秋末以降)

↑

刀銭・布銭 (農具の形) ・環銭 (円形四孔、のち方孔の銭) ・蟻鼻銭 (蟻の鼻の形)

※ 諸子百家 (九流) → (倫理の分析参考)

儒家 ———— 孔子 (前552-前479) (至聖) → 曾子・子思 (前492-前431, 孔子の孫) ・孟子 (前372-299) (亞聖)

→ 顔淵・子游・子夏・荀子 (前298-前238?)

{ 「仁」 (愛-内親の家族愛・忠-自己を犠らぬ・信-他を犠らぬ・恕-他を許し他人の身になつて考えよ) と「礼」 (宇宙・社会の秩序) による思想.

{ 孟子の性善説に基づく徳治主義 ← 四端の説 ・易姓革命の説.

{ 荀子の性悪説に基づく礼治主義 → 法家の韓非 (?-前233) ・李斯 (?-前210) (礼樂説)

道家 ———— 老子 (前580頃か前300頃の間) ・莊子 (前365-前290頃)

{ 老子の無為自然・柔弱謙下の処世・老子五徳・道 → 小国寡民 『老子』

{ 莊子の遊戯意味・道徳の状態 ← 己・功・名より解放された「真人」 『莊子』

陰陽家 ———— 鄒衍 (前305-前240)

◦ 陰陽説と五行説の統合.

法家 ———— 商鞅 (?-前338) ・韓非 (?-前233) ・李斯 (?-前210)

{ 「礼」に代えて信賞必罰の原則により、法治主義.

{ 商鞅: 秦の孝公に任官し「商鞅の改革 (変法)」を断行、秦の強大化に貢献.

↑ 身分等の世襲制を廃止・什伍制・郡県制を採用して、租 (地租) の他に賦 (人頭税) 徴収.

{ 韓非に続いて李斯は秦の始皇帝に任官、李斯は、前246-前210の刑死まで秦の強化・集権集権化に貢献.

墨家 ———— 墨子 (墨翟) (前480頃か前290頃の人) : 別愛を去り兼愛 (博愛) を主張し、その為、交利説・倭約・非攻 (平和主義) を説く.

縱横家 ———— 『戦国策』 (前漢末の劉向編), 蘇秦 (?-前317) の合従策・張儀 (?-前310) の連衡策

兵家 (孫武・孫臏 → 『孫子』 ・呉子 (前440-前381) → 『呉子』) 名家 (公孫竜の「白馬非馬論」)

2. 最初の中華帝国

秦 [前221-前206]

前. 770. 周の平王より犬戎討伐の爲、陝西に封ぜられる。
 前. 4. 孝公 [前361-前338]. 商鞅の改革 (变法)
 前. 350. 都. 咸陽.
 前. 3. 遠交近攻政策により、他の六雄と併合

前. 256. 周
 " 230. 魏・趙
 " 223. 楚
 " 221. 齊

① 政 (才31代秦王) 始皇帝 [前247-前210]

三皇 (天皇・地皇・泰皇)・五帝の徳。
 詔 (政の命)・令 (政の言)・朕 (政の自称)

都. 陝西省の咸陽 (阿房宮)

国制 中央 { 丞相 (左右) --- 一般政務. (韓非 → 李斯 203-202)
 太尉 --- 軍事・蒙氏一族担任.
 御史大夫 --- 官吏監察

地方 { 守 --- 郡の長官
 尉 --- 郡の軍事
 監 --- 郡の官吏監察 } 「郡県制」 (36 → 48) (郡 - 県 - 郷 - 亭 - 里)

周の封建制否定・部族的結合を破壊して、領域国家
 ↑
 明末〜清初の顧炎武 (1613-1682) [考証学者] により、春秋時代より郡県制はありと立証する。

丞相. 李斯の中央集権策.

{ 貨幣の統一 (円形方孔の「半兩錢」) → 前漢武帝の「五銖錢」
 文字の統一 (秦篆・篆書)
 思想統一 («焚書» (前213)・«坑儒» (前213)) --- (医・薬・農・卜書は除く)
 地方豪族を首都咸陽へ集める (約12万人)・行幸. 軍事の爲「馳道」を設ける.
 民間よりの兵器 (武器のとりあげ) 没収.

外的 { 万里の長城修築 (<燕・趙の長城) --- 東は遼寧省遼東から甘肅省臨洮まで 400km.

{ 鄭国渠に代表される. 渭水盆地 (→ 関中) の開拓 ← «史記» 河渠書
 蒙恬 (?-前210) による匈奴討伐 [前215~] オルトス地方平定 --- 陰山山脈へ追う.
 広東 ~ ヲトナム北部迄進攻. 南海・桂林・象の三郡設置. [前214]

② 胡亥 [前210-07] } { * 宦官 (趙高) が李斯の対立. 政の死 [前210]

③ 公子嬰 [前207-06] } { * 陳勝・吳広の乱 [前209-前208] --- «五侯将相イソクシ」種アツク

↓ 前206. 劉邦. 関中入り 秦滅亡 [206]

* 垓下の戦 [前202] (現. 安徽安徽省)

劉邦 (前247-前195) & 項羽 (前233-前202) ← «史記»

「四面楚歌」

「鴻門の会」

{ 張良
 韓信
 蕭何
 樊噲

前漢(西漢) [前202-後8]

①高祖 劉邦 [前202-前195]

都: 長安 (陝西省渭水盆地、現西安近郊) → 西魏・北周・隋・唐

國制: 秦をほぼ受け継ぐが、部分的に封建制度を復活、= 「郡国制」

- 「郡」 --- 中央直属の官吏。
- 「国」 --- 族・功臣を分封。

対外: 白登山の戦 (現、山西省大同) で、匈奴 (冒頓 単于、前209-174) に大敗北 [前200]

和平 → 和蕃公主送出

- ・ 細君 (武帝の甥の女)、前2世紀末、烏孫へ。
- ・ 王昭君 (漢の後宮の女) 前33年、東匈奴の呼韓邪単于の妻とへ。後に五帝の時代、両者の和平に活躍。
- ・ 文成公主 (?-後68?) 後641年 吐蕃の Sron-btsan-sgam-po とへ。→ ラハットの中国文化導入。etc.

②景帝 [前157-前141]

前154. 呉楚七国の乱 (呉・楚・趙・菑川・濟南・膠西・膠東) ← 晁錯の策 (諸国の領土削減)

③武帝 [前141-前87] = 事實上の郡県制確立 (郡・県・郷・里) ←

内政: 郡県制に基づく什伍の制 (郷里の制)

官吏登用法として 郷学里選法 = 推せん制に科擧吏登用。 } 儒学 (經学) と国家権力の結合

中央に、五經博士 (詩・書・易・礼・春秋) } 農本主義的抑商策

貨幣の発行 (五銖銭) [前118]

外征: 張騫 (?-前114) を匈奴使撃の爲、大月氏国 (天山流域) へ派遣

派遣 [前139~前126]

張騫 (?-前114) を匈奴使撃の爲、烏孫 (伊犁盆地) へ派遣 [前128]

董仲舒 (前176-前104) 春秋公羊学

- ・ 天子の支配原理
- ・ 今文 (隸書)
- ・ 井田法 (?) の進言。

衛青 (?-前106)・霍去病 (?-前117) らの西域 (匈奴) 討伐

李広利 (?-前90) の大宛 (费尔干那) 遠征 = 甘肅省敦煌 [前92]

↓

匈奴: ゴビ砂漠の北へ、前72年、東・西分裂。

匈奴支配下の西域諸国を支配・シルクロードの確立。

張騫の

胡瓜・胡麻・胡豆

胡蒜・胡桃・ザクロ

ブドウ・ウズコヤシ

= カワ・石榴・胡了

サフラン

南越征服 [前111] → 南海以下9郡設置 (→ p. 36)

朝鮮半島征服 [前108] → 衛氏朝鮮 [前195-前108] の都五陵城陥る。

乗浪 (~ AD. 313. 高句麗併合まで) ・ 玄菟 (~前75) ・ 臨屯 (~前75) ・ 真番 (~前82) の4郡設置。

- ※司馬遷(前145-前86)『太史公書』(『史記』130巻)

本紀	12巻
表	10
書	8
世家	30
列伝	70

 [記伝体]
- ※長安の世界性を有した文化(藁街・仏教)
- ※大灌漑工事(漕渠・竜首渠・六輔渠・靈輦渠 etc)

武帝の末年は、財政難・政治不安となる。 ← 大遠征 = 外圧(匈奴)の弱体化、
 ↓ 大土木工事、宦官の重用

①重税化、従来の田租(収穫の1/10、現物納)に加えて、
 ①日賦(鉄納の人头税) ②算賦(15歳~56才に軍事税といふ)

②専売制度(塩・鉄・酒) → [国家収入(+) 塩徒の出現(-)] → ⑧昭帝[86-84]の時 霍光(?)により一時廃止、

③商業統制 [均輸法、前115~] [平準法、前110~] 桑弘羊(?-前80)

『塩鉄論』(12巻)桓寛撰

④孝位・忠官 ↔ 宦官の抬頭

外戚の王莽(前45-後23)と儒家による篡奪 = 初の本格的儒教国家

新 [後8-23]

王莽と儒家による復古主義 ← 『周礼』に基づく政治理想

- ①五土五民主義 → 民間の土地売買の禁 [後9~12]
- ②錯刀・契刀・大鉄の発行 (← 五鉄錢)
- ③異民族への中華思想に基づく外交 → 外民族の離反 (「降奴服于」)
- ④専売制度・均輸・平準法は復活

匈奴(陳匈奴) 南越 高句麗 [前37-後668]

赤眉の反乱 [18~27] ← [河南]の豪族の反乱 ← 高句麗遠征軍の動員

後漢(東漢) [後25-220]

①世祖・劉秀(光武帝) [25-57]

都 洛陽 -----> 魏・西晋・北魏の都

内政 礼教主義・文治主義

対外 弱外交 { AD 57 漢倭奴国王(金印)

{ 例外 東漢討伐 : 征側・徴氏姉妹の反乱に対する馬援の討伐 [40~42]

②明帝 [58-75]

対内的には、礼教主義。
 対外的には、積極策(対北匈奴)

竇固 (? ~ 88) のゴビ進攻 [73-75]
 班超 (82-102) の進攻 [73-102]
 [914 ~ 西域都護]

※班固 (32-92、班超の兄) ~ 妹の班昭は
 『漢書』(120巻) (『後漢書』(95巻) 表8、志10、
 列伝70巻 etc)

『正史』(前四史) 『史記』(司馬遷)
 『漢書』(班固)
 『後漢書』(范曄: ?-445) [注]
 『三國志』(陳寿: ?-297) [注]

④和帝 [88-105] = 後漢の最大領域。

対外、西域都護として班超の外征 → Kushana 朝
 (安息 etc 朝貢)
 カスピ以東50余ヶ国 [91]
 甘英 (?)(班超の部下) を大秦国 (Rome 領の
 糸支 (シリア)) へ

Silk Road (Oasis 道) = 絹馬貿易
 Ferdinand Baron von Richthofen
 (1833-1905) [独] の "China" (1877)

敦煌 → { Turfan → ハミ → ウルチ → 伊犁 → Talas → Samarkand [天山北路
 (玉門関) (Bogdiana) } --->
 楼蘭 → Kucha (龜茲) → 疏勒 → [天山南路・北道]
 ミラン → ニヤ → Khotan (于闐) → 莎車 (柁干) → [天山南路・南道]

草原の道 (Kingshi 高原) - カスピ アラビの北
 海の道

内、 『説文解字』 (5巻) と許慎が和帝に上奏 [100頃]
 『蔡侯紙』 と蔡倫 (?-107) 和帝に献上、 ← 前漢末 [前1世紀] 以来の紙の製法技術の集大成
 → 257. Talas 河畔の戦いで西伝。

簡牘・帛書 { 簡 { 木簡 } - 幅1cm、長さ20cm位で一行宛記述。
 (竹簡)
 牘 (た) - 幅の広い木片 (数行宛記述) = 手紙に利用。(書牘 = 手紙)
 帛書 - 絹布

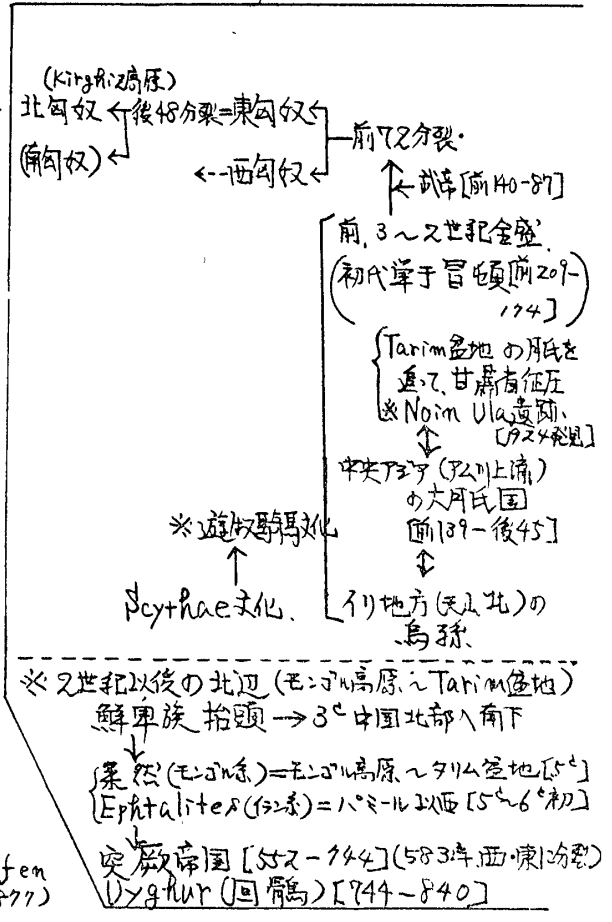
①桓帝 [146-67] ← 166. 大秦国守敬の使節 (シリア北朝) へ来朝

※党錮の獄 [166-67] ---- 宦官の単超らにより「清議」の士 (訓詁學者) 200名余が下獄。 { 樊丰 (127-200)
 李膺 (?-169)

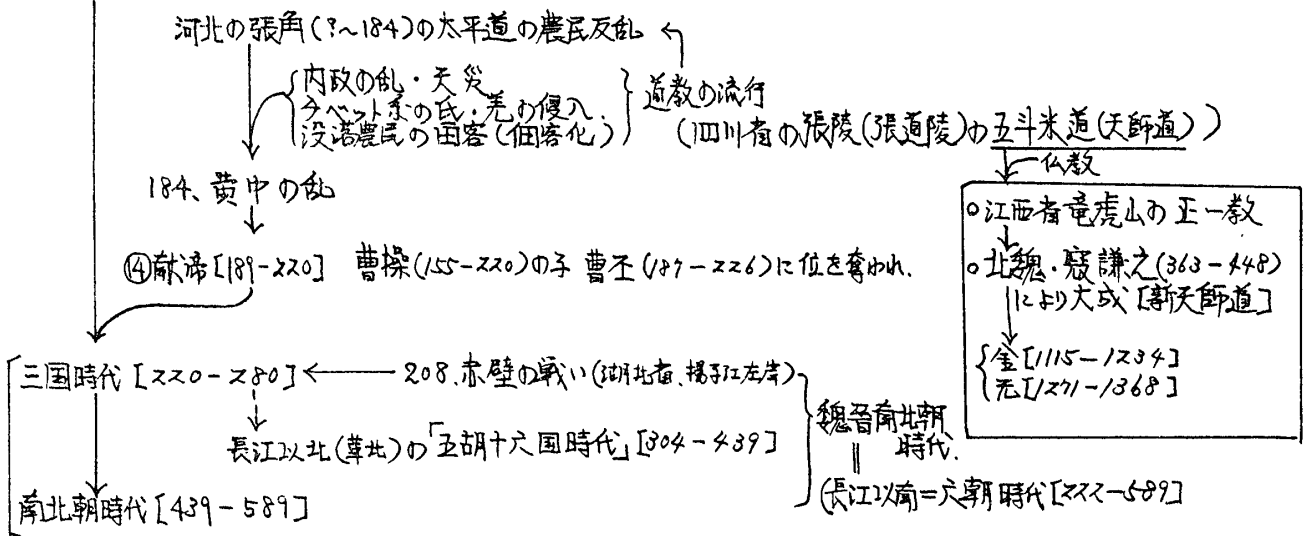
②靈帝 [168] { 167. 6. 大赦されるも、終身「禁錮」(任意の繋)

{ 清流派の反宦官勢力抬頭
 ※党錮の獄 [本回] [169] ----- 竇武・陳蕃・李膺 (清議の士) 死。

[内陸アジア世界の動向]



※3世紀以後の北遊 (モンゴル高原 ~ Tarim 盆地)
 鮮卑族 抬頭 → 3世紀中国北部へ南下
 柔然 (モンゴル) = モンゴル高原 ~ Tarim 盆地 [5世紀]
 Ephthalites (嚃哒) = パミール以西 [5世紀初]
 突厥帝国 [552-744] (583年 西康 | 功烈)
 Uygur (回鶻) [744-840]



※五胡時代—魏 [220-265]・吳 [221-263]・蜀 [222-280] の対立から晉(西晉) [265-316] の一時的な中国統一 [280年] 迄.

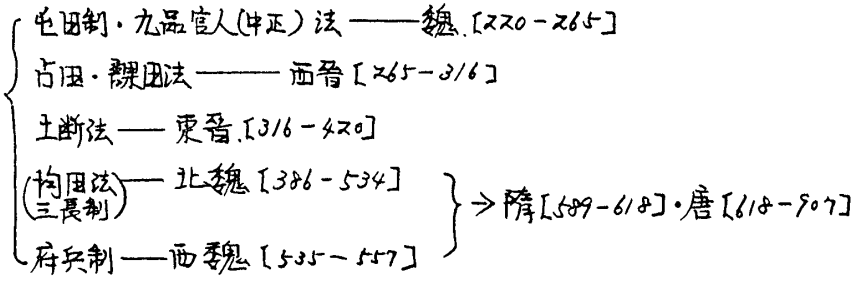
※五胡十六国時代—五胡(匈奴・鮮卑・羯・氐・羌)による華北に於ける建国(13ヶ国)乱立の時代で、通称、八王の乱 [300-306] 又は、晉(東晉) [317] 頃より、北魏による華北統一 [439] 迄の華北についての区分.

※南北朝時代—北魏の華北統一 [439] から、東西の魏・北齊・北周(素戔)へと受け継がれた北朝に対して、建業(建康、現南京)に都した南朝(宋・齊・梁・陳) [烏夷] の対立の時代で 589年、隋の中国再統一まで.

※六朝時代—建業(建康)に都した五胡時代の吳 [221-263] から晉(東晉) [317-420]・宋 [420-479]・齊 [479-502]・梁 [502-557]・陳 [557-589] に至る江南の文化史上の区分.

[魏晉南北朝時代の全般的特色]

- ① 五胡の華北に於ける蜂起・建国による漢民族の「江南」への移住 → 江南の開墾・大土地所有制の発展.
- ② 戦乱による現世への悲・新しい世界観・倫理観が求められる → 仏教・道教の流行.
- ③ 諸種の法制度が試みられ、新しい時代への対応がなされた.



※五胡は、後漢時代を通して、中国境内へ流民・徙民(内徙による強制移住者)として徙(うつ)せられていた.